

經 濟 学 部

履 修 要 項

昭 和 59 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(日) 入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(月) } 新入生オリエンテーション
- 12日(木) }
- 12日(木) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 13日(金) }
- 14日(土) 授業開始
- 12日(木) } 在校生成績質疑応答
- 17日(火) }
- 20日(金) } 1年次生単位履修届受付
- 21日(土) }
- 23日(月) } 2・3・4年次生単位履修届受付
- 28日(土) } (学部により受付日が異なる)
- 29日(日) 天皇誕生日
- 5月1日(火) 祝禱日
- 3日(木) 憲法記念日
- 4日(金) 研修日(全学休業)
- 5日(土) こどもの日
- 14日(月) }
- 23日(水) } 2・3・4年次生健康診断
- 6月1日(金) 祝禱日
- 11日(月) 卒業論文論題提出締切(正午)
- 7月1日(日) 祝禱日
- 9日(月) }
- 14日(土) } 中間試験(授業平常通り)
- 15日(日) 盂蘭盆会
- 16日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
- 17日(火) } (授業休講)
- 18日(水) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月10日(月) 授業再開
- 12日(水) 前期定期試験欠試届(追試申込)
提出締切
- 13日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
米文)・法学部・短大国文・英文の
1年次生及び経済学部の2年次生)
- 20日(木) }
- 15日(土) 敬老の日
- 17日(月) } 前期定期試験成績発表および再試験
申込受付
- 18日(火) }
- 23日(日) 秋分の日
- 26日(水) }
- 28日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(土) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
- 10月1日(月) 祝禱日
- 2日(火) }
- 5日(金) } 1年次生健康診断
- 5日(金) 達磨忌
- 4日(木) } 歴史・社会学科(1年次生)専攻コ
ース指定届受付
- 5日(金) }
- 10日(水) 体育の日
- 11日(木) }
- 12日(金) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(月) 第102回開校記念日
- 11月1日(木) 祝禱日
- 3日(土) 文化の日
- 14日(水) }
- 16日(金) } 転部科試験願書受付
- 21日(水) 太祖(瑩山禪師)降誕会
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 30日(金) 転部科試験
- 12月1日(土) 祝禱日
- 5日(水) }
- 13日(木) } 編入学願書受付
- 8日(土) 成道会
- 10日(月) 卒業論文提出締切(正午)
- 18日(火) 冬季休暇第1日
- 19日(水) 編入学試験

昭和60年

- 1月8日(火) 授業再開
- 15日(火) 成人の日
- 16日(水) }
- 26日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(土) 高祖(道元禪師)降誕会
- 28日(月) }
- 2月5日(火) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月1日(金) 祝禱日
- 7日(木) } 定期試験欠試届提出締切
卒業論文口頭試問
- 11日(月) 建国記念の日
- 15日(金) 涅槃会
- 20日(水) }
- 21日(木) } 学部4年次生・短大生成績発表およ
び追・再試験申込受付
- 27日(水) }
- 3月5日(火) } 学部4年次生・短大生追・再試験,
学部1・2・3年次生追試験
- 3月1日(金) 祝禱日
- 19日(火) 卒業生名簿発表
- 21日(木) 春分の日
- 25日(月) 卒業式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と学士号	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	学 士 号	(6)
III	授業科目の履修方法	(6)
1.	一般教育科目の履修方法	(7)
2.	外国語科目の履修方法	(7)
3.	保健体育科目の履修方法	(10)
4.	基礎教育科目の履修方法	(12)
5.	専門教育科目の履修方法	(12)
6.	随意科目の履修方法	(16)
7.	再履修科目の履修方法	(16)
	※コード番号について	(17)
IV	履修科目の登録（履修届）とその作成順序	(19)
1.	履修科目の登録	(19)
2.	履修届記入上の注意	(20)
3.	履修届の作成順序	(21)
V	試験および成績評価	(22)
1.	定期試験	(22)
2.	中間試験	(22)
3.	追・再試験	(22)
4.	成績評価・単位認定	(23)
5.	進級基準	(23)
6.	受験者心得	(23)
VI	クラス制およびクラス主任	(25)
VII	教職課程・資格講座	(25)
VIII	事務取り扱いについて	(26)
IX	届書・願書について	(26)
X	各種証明書取扱い窓口	(28)
	講 義 内 容	(29)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

- (a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目
- (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
- (c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

経済学科

A. 58年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	4	16	84	
	選 択	17	68		

B. 56年度・57年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

C. 55年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	14	
	第 2 外 国 語	3	6		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	4	16	88	
	選 択	18	72		

商 学 科

A. 57年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

B. 56年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	1	4	84	
	選 択	20	80		

C. 55年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	14	
	第 2 外 国 語	3	6		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	2	8	88	
	選 択	20	80		

2. 学 士 号

大学に4年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

経済学科……経済学士 商学科……商学士

Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配分された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は再履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。

ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次, 「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。

ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	4単位ずつ4科目	計16単位	合計9科目 36単位
社会分野	4単位ずつ3科目	計12単位	
自然分野	4単位ずつ2科目	計8単位	

分 野	授 業 科 目	単 位	履修科目数	修得単位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」の2科目を含めて4科目選択必修	16	36	
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4				
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	倫 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	法 学 憲 法 (日本国憲法2単位を含む)	4	3科目 選択必修	12	36	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	政 治 学 (2年次)	4				
	社 会 学 (2年次)	4				
	地 理 学	4				
	統 計 学	4				
	文 化 人 類 学	4				
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	2科目 選択必修	8	36	
	数 学	4				
	心 理 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり, その2カ国語を1・2年次および3年次(56年度以降入学生)において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第 1 外 国 語		第 2 外 国 語	
	科 目 数	単 位 数	科 目 数	単 位 数
1 年 次	2 (2) 科 目	4 (4)	2 (2) 科 目	4 (4)
2 年 次	2 (2) 科 目	4 (4)	2 (1) 科 目	4 (2)
3 年 次	1 科 目	2	—	—
計	5 (4) 科 目	10 (8)	4 (3) 科 目	8 (6)

※()内の数字は55年度以前入学生適用。

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる。	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
英 語 1R	2			
英 会 話	2			
英 語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること。	
ド イ ツ 語 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
中 国 語 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

A. 56年度以降入学生適用

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語（英語と他の1カ国語）を、それぞれ2AⅠ・2AⅡの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 A I	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 2 A I	2	} 1年次で履修した1カ国語2科目必修
英 語 2 A II	2		ド イ ツ 語 2 A II	2	
		フ ラ ン ス 語 2 A I	2		
		フ ラ ン ス 語 2 A II	2		
		中 国 語 2 A I	2		
		中 国 語 2 A II	2		
		ス ペ イ ン 語 2 A I	2		
		ス ペ イ ン 語 2 A II	2		
		ロ シ ア 語 2 A I	2		
		ロ シ ア 語 2 A II	2		

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通しはば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を發展させ応用力を修得する。

3年次の履修

1・2年次で履修の2カ国語のうち、いずれか1カ国語を第1外国語とし3Aを1科目2単位必修とする。

第1外国語

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 3 A	2		中 国 語 3 A	2	
ド イ ツ 語 3 A	2		ス ペ イ ン 語 3 A	2	
フ ラ ン ス 語 3 A	2		ロ シ ア 語 3 A	2	

B. 55年度以前入学生適用

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位、他方を第2外国語として2Bを1科目2単位、計3科目6単位を必修とする。

第1外国語（指定した外国語2AⅠ・2AⅡの2科目4単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 A Ⅰ	2		中 国 語 2 A Ⅰ	2	
英 語 2 A Ⅱ	2		中 国 語 2 A Ⅱ	2	
ド イ ツ 語 2 A Ⅰ	2		ス ペ イ ン 語 2 A Ⅰ	2	
ド イ ツ 語 2 A Ⅱ	2		ス ペ イ ン 語 2 A Ⅱ	2	
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅰ	2		ロ シ ア 語 2 A Ⅰ	2	
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅱ	2		ロ シ ア 語 2 A Ⅱ	2	

第2外国語（指定した外国語2Bを1科目2単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 B	2		中 国 語 2 B	2	
ド イ ツ 語 2 B	2		ス ペ イ ン 語 2 B	2	
フ ラ ン ス 語 2 B	2		ロ シ ア 語 2 B	2	

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号(下4ケタ)により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1・2年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）のうち、3年次に履修する第1外国語を学生自身が指定し、2年次の9月下旬に登録すること。（56年度以降入学生）
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 3年次までに所定の単位を修得していなければならない。（ただし、55年度以前入学生は2年次まで）

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも火曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期とも次の履修時間に含まれている数種目の中から決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名または種目の担任名ではない。

火・1 (商)	火・2 (経)	火・3 (経)
柔 道 ◎光永	柔 道 ◎光永	サ ッ カ ー ◎田中
空 手 道 高橋	空 手 道 高橋	ソ フ ト ボ ー ル 高森
サ ッ カ ー 秋田	ハ ン ド ボ ー ル 村松	テ ニ ス 牧野
ハ ン ド ボ ー ル 村松	室 内 球 技 牧野	室 内 球 技 村松
テ ニ ス 田中	ト レ ー ニ ン グ 高森	卓 球 関本
ト レ ー ニ ン グ 高森	テ ニ ス 関本	ト レ ー ニ ン グ 秋田
室 内 球 技 関本		

※経済学科の体育実技の組分については、時間表参照のこと。

再履修クラス（2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う）

火・3	水・1	水・2
室 内 球 技 ◎長浜	室 内 球 技 ◎原山	室 内 球 技 ◎原山
太 極 拳 大石	剣 道 上山	剣 道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位の認定が行われる。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗 難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次に1科目4単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

イ. 1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。

ロ. 所属学科の開講科目を履修することを原則とするが、特に希望する場合、同学部内の専門教育科目に限り他学科の開講科目でも履修して試験に合格すれば単位が認められる。(科目コード番号が335…ではじまる科目。本年度の該当科目は、近代経済学である。)

ただし、必修科目に関しては他学科の科目は履修できない。

経済学科

必修科目

A. 58年度以降入学生 4科目16単位

2年次必修		
授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	
経済原論Ⅱ	4	
経済史	4	
経済政策	4	

B. 56年度・57年度入学生 3科目12単位

2年次必修		
授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	旧経済原論
経済史	4	
経済政策	4	

C. 55年度以前入学生 4科目16単位

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	旧経済原論	外書講読Ⅰ	4	
経済史	4				
経済政策	4				

選択科目の卒業所要単位数

58年度以降入学生 68単位以上

57年度以前入学生 72単位以上

商 学 科

必修科目

A. 57年度以降入学生 3科目12単位

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		商 学 総 論	4	
			経 営 学 総 論	4	

B. 56年度入学生 1科目4単位

1 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4	

C. 55年度以前入学生 2科目8単位

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4		外 書 講 読 I	4	

選択科目の卒業所要単位数

57年度以降入学生 72単位以上

56年度以前入学生 80単位以上

選択科目一覧（経済・商学科共通）

1 年次選択			3・4 年次選択			3・4 年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
会計学総論	4	※イ	経済学史Ⅱ	4		保険論	4	
2 年次選択			日本経済史	4		貿易論	4	
簿記論	4		国際経済論	4		証券市場論	4	
財務会計論	4		財政学	4		銀行論	4	
経営学総論	4	※ロ	金融論	4		税務会計論	4	
統計原論	4		社会政策	4		経済法	4	
商学総論	4	※ハ	商業政策	4		会計監査論	4	
憲法	4		農業政策	4		国民所得論	4	
民法一部	4	総則 物権	工業政策	4		管理会計論	4	
経済原論Ⅰ	4	※ニ	民法二部	4	債権	アメリカ経済論	4	
経済原論Ⅱ	4	※ホ	商法一部	4	総則 会社法	中国経済論	4	
経済政策	4	※ヘ	商法二部	4	商行為・ 手形・小 切手法	アジア経済論	4	
経済史	4	※ヘ				ヨーロッパ経済 論	4	
商業史	4		景気変動論	4		日本経済論	4	
演習Ⅰ	4		交通論	4		ソヴェト経済 論	4	
3 年次選択			財政政策論	4		中小企業論	4	
演習Ⅱ	4		国際金融論	4		価格理論	4	
4 年次選択			経済地理	4		教育経済論	4	
演習Ⅲ	4		労働経済論	4		マーケティング	4	
3・4 年次選択			労務管理	4		商品学	4	
近代経済学	4	※ト	原価計算論	4		経営管理論	4	
経済学史Ⅰ	4		労働法	4		原書講読	4	

※イ「会計学総論」 経済学科の学生に限り適用。簿記学を修得した学生は、履修できない。

※ロ「経営学総論」 旧：経営経済学。商学科の学生で57年度以降入学生は必修科目として履修すること。

※ハ「商学総論」 商学科の学生で57年度以降入学生は必修科目として履修すること。

※ニ「経済原論Ⅰ」 旧：経済原論。商学科の学生に限り適用。

※ホ「経済原論Ⅱ」 商学科の学生で58年度以降入学生に限り適用。

※ヘ「経済政策」・「経済史」 商学科の学生に限り適用。

※ト「近代経済学」 経済学科の学生に限り適用。（P.12 5のロを参照）

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比較思想特講	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 FLL	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)

※日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

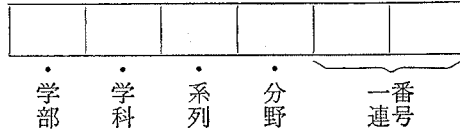
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は新履修とみなす。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(c) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修), 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	3
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1.2.3
選択科目		5.6.7.8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3.4.5.6.7.8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次における最低および最高履修科目数（制限科目数）は原則として次のとおりとする。

年 次	新履修科目数	再履修を含む科目数
1 年 次	15 科 目	_____
2 年 次	5 科目以上12科目以内	53年度以前入学生は制限外，それ以外は制限内
3 年 次	5 科目以上12科目以内	53年度以前入学生は制限外，それ以外は制限内
4 年 次	5 科目以上14科目以内	5 科目以上14科目以内

イ．課程・講座科目・随意科目は上記表の制限外とする。

ロ．制限範囲内で順次履修すれば，4年次においての新履修科目は専門3科目だけとなり，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ハ．半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ．履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは教務部窓口にご相談すること）

ロ．履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ．所属する学科以外の授業科目は原則として登録できない。ただし，同学部内で他学科の専門教育科目を特に希望する場合，または課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として，登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ．履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ．授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ．「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	ドイツ語1G	312201	百 済	879
	~~~~~			
二時限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
~~~~~				
三時限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
~~~~~				
四時限	論 理 学	310203	国 嶋	429
	自然科学概論	310401	漆 原	121
~~~~~				
五時限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141
~~~~~				

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
月 (1)	1		ドイツ語1G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前)	3 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 数 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	国 嶋	4 2 9
	5		体 育 実 技	3 1 4 1 0 1	大石(武)	1 4 1

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
  - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
  - ロ. 時限を誤って記入した場合
  - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
  - ニ. その他, 不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### （経済学科）

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目（適 用）	科 目 数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目中6または7科目を選択 社会分野 } 必修(不足の場合は2年次で履修) 自然分野 }	7
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

#### （商 学 科）

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目（適 用）	科 目 数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	専門教育科目	会計学総論（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目中6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	6
1年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。

ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう、従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II 再試験

1・2・3年次生については、再試験は、一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技・演習は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

#### 4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

#### 5. 進級基準

##### ◎正規進級

上級学年に進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

##### ◎注意進級

正規の進級基準には達しないが、教育的配慮から進級を認める。ただし、注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上を取得するも、その内一般教育科目、保健体育科目、外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

#### 6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。
- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。
- ホ. 次の場合は退場を命じ、その解答を無効とする。
  - (1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき
  - (2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき

(3) 監督者の指示に従わないとき

へ. 次の場合には, その答案を無効とする。

(1) 無記名のもの

(2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき

(3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し, 原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があつて, 当該教授会が不正行為と認定したときは, 学則第57条により懲戒する。

なお, 懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか, 試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

## Ⅵ クラス制およびクラス主任

1年次では学科毎にクラス制をとり、それぞれクラス主任（教員）をおいて学生の学習指導、生活相談等にあたる制度がある。ただし、59年度は実施しない。

## Ⅶ 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。（ただし、社会福祉主事講座は59年度以降の入学生より適用。）

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会福祉を増進させるための機関等、および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名		備考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	//	
社会福祉主事講座	//	59年度入学生より適用
社会教育主事講座	//	

## Ⅷ 事務取り扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年度生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間について

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

### 3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出、成績発表各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次等、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在、国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示を見るか、関係事務窓口で問い合わせること。

## Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	⑦

## X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一 通 100円 (英文証明書) (一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし、教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

## 講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(33)
外国語科目(共通).....	(38)
保健体育科目(共通).....	(39)
随意科目(共通).....	(42)
基礎教育科目.....	(44)
専門教育科目.....	(45)
教職および資格講座.....	(59)



一般教育科目

人文分野

宗教学 I (袴谷 憲昭) .....33  
 宗教学 I (池田 魯参) .....33  
 宗教学 I (末光 愛正) .....33  
 宗教学 I (吉津 宜英) .....33  
 宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄) .....33  
 宗教学 I (再クラス) (奈良 康明) .....33  
 宗教学 II (皆川 広義) .....34  
 宗教学 II (永井 政之) .....34  
 宗教学 II (伊藤 秀憲) .....34  
 宗教学 II (中野 東禅) .....34  
 宗教学 II (河村 孝道) .....34  
 宗教学 II (田中 良昭) .....34  
 哲学 (国嶋一則・桑原直己) .....34  
 論理学 (門脇俊介・桑原直己・円谷裕二) .....34  
 倫理学 (中島 盛夫) .....35  
 文学 (新井 章) .....35  
 文学 (野中 雅行) .....35  
 歴史学 (木槻 哲夫) .....35  
 歴史学 (宮本由紀子) .....35  
 歴史学 (野呂 肖生) .....35  
**社会分野**  
 法学憲法 (竹花 光範) .....35  
 法学憲法 (松村 格) .....35  
 法学憲法 (馬越 道夫) .....36  
 政治学 (岡田 皓一) .....36  
 政治学 (小林 正敏) .....36  
 社会学 (田草川僚一) .....36  
 社会学 (岩上 真珠) .....36  
 統計学 (太田 博) .....36  
 地理学 (宮口 侗勉) .....36  
 地理学 (玉井 建三) .....37  
 文化人類学 (加藤 正春) .....37  
**自然分野**  
 自然科学概論 (漆原 和子) .....37  
 自然科学概論 (斉藤 浩三) .....37  
 数学 (宮寺 功) .....37  
 数学 (斉藤 浩三) .....37  
 心理学 (梅田 敏文) .....37  
 心理学 (園田 健司) .....37  
 心理学 (重野 純) .....38

外国語科目

英会話 (Pratt, T. C. Dean) .....38

保健体育科目

体育実技 .....39

随意科目

比較思想特講 (窪 徳忠) .....42  
 ドイツ語 F (栗原 万修) .....42  
 ドイツ語 F L L (初級) (小林佳世子) .....42  
 ドイツ語 F L L (中級) (松本 洋子) .....42  
 フランス語 F (小玉 齊夫) .....42  
 フランス語 F L L (初級) (松岡 宏一) .....42  
 フランス語 F L L (初級)  
 (マドレーヌ・マルタン) .....42  
 フランス語 F L L (中級)  
 (マドレーヌ・マルタン) .....43  
 中国語 F (刈間 文俊) .....43  
 中国語 F L L (初級) (果 荃 英) .....43  
 中国語 F L L (中級) (羅 漾 明) .....43  
 スペイン語 F (佐藤 玖美子) .....43  
 スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナバロ) .....43  
 スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナバロ) .....43  
 ロシア語 F (岡沢 宏) .....43  
 ロシア語 F L L (初級)  
 (タチャーナ・バリーソヴナ・野村) .....43  
 ロシア語 F L L (中級)  
 (タチャーナ・バリーソヴナ・野村) .....43  
 日本語 F (初級) (留学生対象) (杉山 秀子) .....44  
 日本語 F (中級) (留学生対象) (大塚 純子) .....44

基礎教育科目

経済学概説 (大石 雄爾) .....44  
 経済学概説 (齋藤 正) .....44

専門教育科目

**1 年次必修科目 (商学科)**  
 会計学総論 (遠藤 孝) .....45  
 会計学総論 (長谷川 忠一) .....45  
**1 年次選択科目 (経済学科)**  
 会計学総論 (中原 章吉) .....45  
 会計学総論 (前期) (前田 貞芳) .....45  
 会計学総論 (後期) (加藤 利安) .....46

## 2 年次必修・選択科目

経済原論Ⅰ (大石 雄爾) .....	46
経済原論Ⅰ (横山 正彦) .....	46
経済原論Ⅰ (齋藤 正) .....	46
経済原論Ⅱ (浅田統一郎) .....	46
経済原論Ⅱ (和田 禎一) .....	46
経済政策 (石井 啓雄) .....	47
経済史 (永田 正臣) .....	47
商学総論 (大吹 勝男) .....	47
経営学総論 (寺中 良二) .....	47

## 2 年次選択科目

民法一部 (鶴井 俊吉) .....	47
憲法 (齊藤 寿) .....	47
商業史 (山田 勝) .....	47
統計原論 (吉野 紀) .....	48
簿記論 (竹林 代嘉) .....	48
財務会計論 (遠藤 孝) .....	48
演習Ⅰ (前期) (前田 貞芳) .....	48
(後期) (加藤 利安) .....	48

## 3・4 年次選択科目

民法二部 (青野 博之) .....	48
農業政策 (浅田 喬二) .....	49
近代経済学 (浅田統一郎) .....	49
価格理論 (荒木 勝啓) .....	49
商法一部 (荒木 正孝) .....	49
経済学史Ⅱ (有井 行夫) .....	49
会計監査論 (飯岡 透) .....	49
国際金融論 (池田 健) .....	50
労務管理 (石井 修二) .....	50
交通論 (石井彰次郎) .....	50
保険論 (石名坂邦昭) .....	50
商業政策 (岩下 弘) .....	50
経済法 (江上 勲) .....	50
証券市場論 (柿崎 暎次) .....	50
労働法 (掛谷力太郎) .....	51
原価計算論 (加藤 利安) .....	51
工業政策 (剣持 通夫) .....	51
経済地理 (上坂 修夫) .....	51
日本経済史 (古庄 正) .....	51
中国経済論 (小杉 修二) .....	51
アジア経済論 (小林 英夫) .....	52
財政政策論 (里中 恒志) .....	52
金融論 (渋谷 隆一) .....	52
ヨーロッパ経済論 (清水 卓) .....	52
商法二部 (関口 雅夫) .....	52
アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘) .....	52
マーケティング (曾我 信孝) .....	53
商品学 (塚原 博) .....	53
国際経済論 (徳永 俊明) .....	53
管理会計論 (中原 章吉) .....	53

景気変動論 (西村 允克) .....	53
税務会計論 (長谷川 忠一) .....	54
経営管理論 (百田 義治) .....	54
経済学史Ⅰ (福原 好喜) .....	54
貿易論 (古沢 紘造) .....	54
銀行論 (本間 靖夫) .....	54
中小企業論 (三井 逸友) .....	54
社会政策 (光岡 博美) .....	55
日本経済論 (三宅 明正) .....	55
人口論 (森岡 仁) .....	55
教育経済論 (谷敷 正光) .....	55
ソヴィエト経済論 (前期) (山縣 弘志) .....	55
(後期) (羽場久滉子) .....	55
労働経済論 (山下不二男) .....	55
国民所得論 (吉野 紀) .....	56
財政学 (中村 英雄) .....	56
原書講読 (有井 行夫) .....	56
原書講読 (石井 修二) .....	56
原書講読 (岩下 弘) .....	56
原書講読 (大石 雄爾) .....	56
原書講読 (大吹 勝男) .....	56
原書講読 (加藤 利安) .....	57
原書講読 (小杉 修二) .....	57
原書講読 (小林 英夫) .....	57
原書講読 (清水 卓) .....	57
原書講読 (瀬戸岡 紘) .....	57
原書講読 (曾我 信孝) .....	57
原書講読 (徳永 俊明) .....	57
原書講読 (百田 義治) .....	57
原書講読 (福原 好喜) .....	58
原書講読 (三井 逸友) .....	58
原書講読 (光岡 博美) .....	58
原書講読 (山縣 弘志) .....	58
演習Ⅱ (谷口 洋志) .....	58
演習Ⅱ (平賀 明彦) .....	58
演習Ⅲ (谷口 洋志) .....	58
演習Ⅲ (平賀 明彦) .....	58

# 一般教育科目

## 人文分野

### 宗教学 I

袴谷 憲昭

一般教養としての「宗教学」に関する知識を教授する（主として前期）と共に、日本文化とも深いつながりを持った「仏教」についてもその歴史的展開を踏まえて講義する（主として後期）。

〔教科書〕 仏教学研究室編『宗教学 I』（更生社）

### 宗教学 I

池田 魯参

仏教ないし禅文化が日本の文化史を貫ぬいている大きな流であることは誰れも疑わないと思う。私たちの日常生活も無意識でいるだけであって無縁ではありえない。伝統文化の見直しさえ叫ばれている昨今である。

本講では、仏教とは何なのかを、世界宗教との対比のなかで考えてみたいと思う。宗教の時代であるかと思われるほどの宗教問題の氾濫の時代に、果して仏教はどのような問題解決の方法を示すことができるか、一人一人の問題として究明して欲しい。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社） ￥1,950

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
￥1,400

### 宗教学 I

末光 愛正

宗教学に対する一般的な教養知識を概説した上で、出来る限り具体的に判りやすく仏教について講義する。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I

吉津 宜英

宗教学は人文分野の一般教育科目の一つである。人文とは天文、地文と並べられて、人間のあるべき姿（道理）を考察する学問である。現今においては人文、社会、自然の三分野に分けられたり、人文と社会とを共存させて文化学と称することもあるが、いずれにしても、宗教学が人間のあり方を中心とすることに変わりはない。しかし、世界には人間を超えて神を立てる宗教や、神を立てず、人間の自覚を中心とする宗教や、一神ではなく多神を崇拝するものもある。いろいろの宗教が現存するという確認の上で、仏教の特色を考えるが、「宗教はすばらしい」とか「宗教は全く無価値だ」と言う前に、宗教の実相を先ず見る必要がある。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社） ￥1,950

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I（再クラス）

岡部 和雄

前半で宗教とは何かという問題を現代とのつながりの中で具体的に考えていく。後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を呈示したい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）、  
脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

### 宗教学 I（再クラス）

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

皆 川 広 義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえてきた仏教について、教主釈尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

## 宗 教 学 II

永 井 政 之

自分の目ざす分野が何であれ、その根底を形成するのは、志を立てた自分という「人間」である。禅はまさしく、このような「人間」を究めんとする宗教である。その手だてとなるのは坐禅であり、坐禅を基盤においた日常性にほかならない。毎日毎日を生きている自分という「人間」とかけ離れて「禅」はないのである。宗教学Iの後をうけて、禅とは何か、その目ざすところは何かということ、を、具体的に考えてみよう。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

¥ 1,950

## 宗 教 学 II

伊 藤 秀 憲

インドにおける禅定、中国での禅宗の成立と発展、そして日本への流伝（特に道元禪師とその門流を中心に）と言った、禅の歴史を通観し、そこに現われた禅匠たちの生き方から、禅の人生観・人間観等を考察したい。

〔教科書〕 『宗教学II』（更生社） ¥ 1,950

## 宗 教 学 II

中 野 東 禅

人生とは何か。一言でいったら「えらぶこと」と「えらべないこと」である。えらぶことは心に所属し、えらべないことは命に所属する。この二つは現代社会でますますわからなくなって来ている。心の構造を真理との出会いという場で明らかにしたら、人間というもののもっとわかるにちがいない。また生命科学などのもたらすいのちの混乱に対して人間を明析に見つめ直す必要がある。

そこで「人間とは何か」という存在の根源に対する答

えとして「禅仏教」を学ぶ。その答えを自己のものにするのが禅の実践体系であり、豊かな文化である。生き方学・人間学としての禅のもつ機能を明らかにしたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

¥ 1,950

## 宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関り合いとそこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『宗教学II』（更生社）

## 宗 教 学 II

田 中 良 昭

宗教学IIは宗教学Iの後を承けて、禅とは何かを学ぶものである。禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅の思想及び実践的面について考察を進めていく。

〔教科書〕 『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 哲 学

国 嶋 一 則 ・ 桑 原 直 己

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

## 論 理 学

門 脇 俊 介 ・ 桑 原 直 己  
円 谷 裕 二

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合む

ろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

## 倫 理 学

中 島 盛 夫

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか、理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の獲得に努める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

## 文 学

新 井 章

日本の詩歌の歴史を概括的に把握する。上代・中世・近世・近代現代の時代に分けて考察し、新しい詩歌の方向をさぐる。特に近代現代に重点をおく。

〔教科書〕 『松井芒人論』（教育出版センター）

¥ 1,800

〔参考書〕 『日本韻文史』（桜楓社） ¥ 1,800

## 文 学

野 中 雅 行

「文学的精神の考察」……事例として森鷗外・谷崎潤一郎・川端康成らの作品を読みすすめ、必要に応じて仏教学・心理学・歴史学・国語学等の非文学的分野からの検討を加え、その文学的特性を析出させてみる。「文学」一般の特性にも考察をすすめる。

〔教科書〕 各種文庫本を用いる予定であるが、詳細は教場で指示する。

## 歴 史 学

木 槻 哲 夫

日本史上の問題点いくつかを紹介しつつ、日本社会の発展について考察したい。教科書は特定しない。

## 歴 史 学

宮 本 由 紀 子

女性の歴史を中心として講義する。主として近世から近代の女性史を検討する。

## 歴 史 学

野 呂 肖 生

歴史学とは何かの基本を考え、現代当面するさまざまな課題の中から素材を求めて歴史的に考察してみたいと思う。

## 社 会 分 野

### 法 学 憲 法

竹 花 光 範

一年を二分し、前半は「法学」の講義、後半は「日本国憲法」の講義を行う。

〔教科書・参考書〕 講義の中で述べる。

### 法 学 憲 法

松 村 格

普段には法を意識しないで済んでいる私達の生活も実際は全てが法的生活であるといって過言ではない。何か問題が生じた時に、「まあええじゃないか」とか「そんなに理屈をいわんでも」と言って問題点をはぐらかしたり、あるいは日常論や情緒論で解決しようとするのが日本人の大半のあり方である。今後の社会を担う諸君が、かかる場合に冷静な論理的判断を下し、法的な考え方ができる人として社会に出てくれることが、この講義の目的である。形而上学的な話から身近な事例に至るまであるいは憲法を中心とした実定法上の諸問題に言及を馳せて、学生諸君の「正しさ」の追究心と法的判断力の向上に資するようにしたい。

〔教科書〕 未定

## 法 学 憲 法

馬 越 道 夫

社会秩序を維持発展させることは社会の内在的要請であり、法はかかる要請を達成するための手段である。

従って社会秩序のあり方が変化すれば、法もまた変化せざるをえない。本講では法のかかる機能をふまえて判例等の具体例を通じて、法と社会との関連を講述したい。前半は憲法・特に基本的人権と三権分立制度及び両者の関係を講義し、後半は民法・商法・訴訟法などについて講義する予定である。限られた時間を有効に使うために、必ず予習をすること、六法全書に親しむこと、これが皆さんに対する私のお願いである。

〔教科書〕北島照明著『新訂 法学概論』（法学書院出版）

〔参考書〕高窪利一編『現代の法学』（蒼文社出版）

## 政 治 学

岡 田 皓 一

本講では、政治学の基礎理論をとりあげ、その原理的究明に視点をあてて講義するが、分りやすい講義にするよう努める。特に本講では現代政治についての理解を深めるという意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに政治権力、選挙、国家、政治機構などといった問題にも論及する。

〔教科書〕飯山 勇著『政治学要論』（八千代出版）

## 政 治 学

小 林 正 敏

本講では、まず政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、政治学の原理的究明を行い、さらには現代の政治機構、政治集団、政治過程に関しても可能なかぎり平易かつ具体的に論述したい。

〔教科書〕高橋正則他『現代日本の政治構造』（声書房）

## 社 会 学

田 草 川 僚 一

社会学は様々な社会現象を研究対象とし、それを人間（個人）＝集団＝社会の相互のかかわりの中で考察してゆく社会科学の一分野である。

本講義においては、これら相互のかかわりを考えるに当たっての社会学独自の概念枠組に触れつつ、つとめて現代社会が当面する諸問題にかかわらせながら講義を進めてゆく予定である。

必読文献及び参考文献に関しては、講義内容の進行に別して具体的なテーマごとに別途指示する。

〔教科書〕安藤・児玉編『新版 社会学概論』（学文社）

## 社 会 学

岩 上 真 珠

われわれがとっている行動は、選択と決定の絶えざる繰り返しである。われわれは、何故ある場面ではある行動を、別の場面では別の行動をとるのだろうか。講義では、多くの他者とかわり合いながら展開される人間行動のメカニズムを、制度、集団、組織、関係といった視点から考察する。

〔参考書〕『パーガー社会学』（学習研究社）

¥ 2,600

## 統 計 学

太 田 博

今日、数量的認識手段としての統計はますます重視されてきている。けれども、その統計も表面は数的精密さを装っているが、内実は多くの制約をうけており、その利用に際しては「統計の誤用・悪用」を注意しなければならない。ここでは、統計の分析方法だけでなく、統計資料の蒐集や統計の作成方法などを体系的に説明しながら、統計に対する正しい見方、使い方の基礎を養成することを目標にしている。

〔教科書〕萩原 稔著『統計学総論』（白桃書房）

## 地 理 学

宮 口 侗 廸

前期は都市に関する基本的理解を深めることを目的とし、都市の起源、発達史、かんたんな都市理論の紹介などを行なう。後期はそれをふまえて、世界有数の大都市である東京を、地理学の立場からどのように理解するかについて講義する。図を通しての理解が不可欠なので、特に講義用教材（¥ 1,000程度）を作成し、使用する。

## 地 理 学

玉 井 建 三

地形と気候の概説をおこない、地域空間における自然環境のとらえ方をのべる。さらにそれをふまえて、生活の基本を整える土地に根づいた文化から、活動の分化によって各地に産業が発達する過程まで論じ、又、文化圏とその変容についてものべる。

## 文化人類学

加 藤 正 春

文化人類学の基本的な概念、方法、課題等を講義する。できるだけ具体的な事例をあげながら、社会組織、宗教・世界観、文化変化といった人類生活の諸側面を検討する。また、現在フィールド・ワークをおこなっている沖縄や本土の民俗社会の事例を紹介し、われわれに身近ないくつかの問題も考えてみたい。

参考書類は講義の中で適宜紹介する。

## 自然分野

### 自然科学概論

漆 原 和 子

自然科学の歴史を通じて、人間が自然へどのように働きかけてきたかを学ぶ。さらに現在、高度な科学、技術をもって自然に接することによって、どのような問題をかかえているかをも考察する。

### 自然科学概論

斉 藤 浩 三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで、地圏に関する諸事象とくに自然災害と関連の深いものを解説し、さらにエネルギー問題や環境問題を取りあげて講義する。

## 数 学

宮 寺 功

大学文科系の数学としての数学を、主に微分積分学を中心として平易に解説する。

〔教科書〕 大学自然科学教育研究会『改版 大学の数学』（東京教学社）

## 数 学

斉 藤 浩 三

現代は情報化時代といわれる。産業、経済、社会、学術のあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫しているが、このような情報化社会において、主要な役割りを演じているものは統計数値である。したがって、情報を有効に利用するには統計的手法が必要である。調査資料の集計と整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、標本調査など実際に役立つ事項について、例題を示して講義する。

## 心 理 学

梅 田 敏 文

広義の意味で心理学の目的は、ひとつには、人間行動のメカニズムを理解して、それを理論的に体系化していくことにある。次には、そのような体系化された理論や情報に基づいて、種々の社会現象、文化現象といったものを理解し、さらに、人間や社会の進歩と成長に寄与することにある。この点で、心理学は人間に関わる種々の科学の中であって、その中核的な位置にあるといっても過言ではない。この講義では、このような観点から心理学一般について学びながら、「人とは何か」について共に考え、これを追究していきたい。

〔教科書〕 中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

〔参考書〕 矢田部達郎監修『心理学初歩』（培風館）  
その他適宜紹介します。

## 心 理 学

園 田 健 司

人間の生命維持には生理的動的平衡が不可欠であるが、この平衡が意識下で処理しきれなくなると外界に働きかけることによって平衡を保とうとするための動因としての欲求が意識にのぼってくる。然し、現代のように

イノベーション化し、複雑多岐に亘っている社会では、すべてその欲求を充足してくれるとは限らない。従って、人間は時には self control をすることによって社会に適応することになる。そのために、心理学は人間の有機的社会的側面をベースに心理的側面を考えていかねばならない。そこで、本講義はこのような生理的・心理的メカニズムをもった人間について、現代心理学が扱っている領域の面から各論的に講じてみたい。

〔教科書〕 『心理学概論』（八千代出版）

心 理 学

重 野 純

心理学の基礎的な知識の習得を目的とする。講義は実験例の紹介を中心とし、知覚、学習、パーソナリティなどほぼ全般にわたって概説する。

〔教科書〕 『心理学入門』（北樹出版）

## 外 国 語 科 目

英 会 話

Pratt, T. C. Dean

English conversation necessary for everyday life. Native speaker word-group sound. Also discussion on current life, Japan and the world. each student is required to give a speech or tell a story. Original, limit 5 minutes.

# 保健体育科目(共通)

## 実技種目の概要及び指導教員名

### 一年次生種目〈玉川校舎〉

#### 室内球技(玉川体育館)

牧野 茂・光永 吉輝  
田中 佳孝・村松 誠  
秋田 浩一・久保田洋一  
竹田 幸夫

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

#### 体操(玉川体育館)

三幣 晴三・竹田 幸夫

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

#### トレーニング(玉川体育館)

高橋 俊介・秋田 浩一  
武藤 幸政・高森 秀蔵

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進、内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ。

#### 柔道(玉川体育館)

光永 吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)、応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

#### 剣道(玉川体育館)

上山 智身

剣禅一致の精神に基づき、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古，互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

#### 空手道(玉川体育館)

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基づき、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技(空気を相手に、受、突、打、蹴技の反復練習)
2. 形(基本の受、突、打、蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手(基本技で取得した、受、突、打、蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

#### 相撲(玉川体育館)

館岡 儀秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

### 陸上競技（玉川グラウンド）

森 本 葵

駒大式四種競技（100米，長距離，砲丸投，走高跳）を行い，得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが，普通のトレパンでも可。なお，スパイクの着用は原則として認めない。

### ソフト・ボール（玉川グラウンド）

太田 誠・館岡 儀秋  
高森 秀藏

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ，トレパン。グラブ，ミットは貸与する。

### サッカー（玉川グラウンド）

原山 良勁・田中 佳孝  
秋田 浩一

基本技術を中心として練習し，毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

### ハンド・ボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス，シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は，トレシャツ，トレパン，運動靴を用意すること。

### テニス（玉川グラウンド）

牧野 茂・田中 佳孝  
浅野 鉦世・関本美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は，一般の運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが

望ましい）とするが，靴はテニスシューズを用意すること。

### 卓球（玉川校舎）

宮沢 栄作・村松 誠  
秋田 浩一・関本美津子

ゲーム（シングル，ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

### 太極拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し，精神・身体を健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

### ゴルフ（玉川グラウンド）

三 幣 晴 三

ゴルフスイングの基礎技術の習得とともに，ゴルフで最も肝要とされるルールとマナーの基本的理解により，正しいゴルフの精神を身につける。服装は一般的運動服装とする。

## 実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：  
世田谷区宇奈根 1-1-1（学生手帳を参照）  
TEL (709) 0717

## 再履修生種目〈本校〉

### 室内球技（本校体育館）

長 浜 友 雄・原 山 良 勁

基礎技術の習得とに併せて，ゲームにより，その競技

を理解する。(バレーボール, バスケットボール, その他)

服装: 一般的運動服装, 上履用運動靴。

空手道 (本校第二体育館)

大石 武士

拳禪一致の精神に基づき, 初心者を対象として実施する。服装は原則として空手道衣着用のこと。

剣道 (本校第二体育館)

上山 智身

剣禪一致の精神に基づき, 初心者を対象として実施する。

服装・試験については最初の授業において説明する。

### 実技教場案内

(1) 本校体育館: 本学内, 男子更衣は三階東側スタンド (ステージに向い左側)。女子は三階西側の更衣室 (ステージに向い右側)。

TEL (418) 9517・9213

(2) 本校第二体育館: 本学内, 相撲道場の隣, 一階は柔道場, 二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。

TEL (418) 9201

# 随 意 科 目

## 比較思想特講

窪 徳 忠

中国人のあいだから成立した道教の性格と内容とを紹介したのち、12世紀中葉に組織された全真教や真大道教と仏教との異同について考えてみたい。できれば、道教思想と日本の修験道の思想とを比較したいと思っている。

〔教科書〕 使用せず、ノートによって行う。

〔参考書〕 窪 徳忠『道教史』（山川出版社）

¥ 1,900, 同『中国文化と南島』（第一書房） ¥ 2,500

## ドイツ語 F

栗 原 万 修

ドイツ民話と日本民話（独文）を読みくらべ、比較文学的、あるいは心理学的な比較なども一緒に考えてみたい。できるだけ読みやすいものを選び、テキストはその都度配布する（無料）。

## ドイツ語 FLL（初級）

小 林 佳 世 子

意志疎通の基本的な条件である聴き取り能力を養うために、音声としてのドイツ語に重点をおく。テープやビデオを用いて、現代の生きたドイツ語に触れ、正しい発音、基本的な文型や語彙を身につけ、やさしい日常会話ができるようにしたい。

## ドイツ語 FLL（中級）

松 本 洋 子

一年次のドイツ語（1G, 1R）を終えた者を対象に、ビデオテープなどを用いて、一年次ですでに修得した基本的な文型・語彙が自在に会話などに活かせるようにしていきたい。

## フランス語 F

小 玉 齊 夫

「フランスの地理・歴史・文化」

ことばの背景をつくりあげている、さまざまな風俗・習慣を浅く広く、ということにはなるでしょうが、視聴覚の教材をも用いながら、なるべく多角的に、随時、基礎的な知識の再構成をはかりつつ、迫りなおし、ことばの習得への根拠を、あらためて、整備・形成していきたいと思います。

〔教科書・参考書〕 適宜指示します

## フランス語 FLL（初級）

松 岡 宏 一

学生諸君にLLを受講すると同時に他のフランス語正科を何かひとつ聞いていただくことをお願いいたします。テキストは昨年同様 HACHETT 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使います。（ただし使うページを重複しないように注意いたします）。音はテープを使用、教室は新装のLL教室を使います。

ともかく、会話というものは、ただ、だまって聞いていれば自分は何一つしゃべらなくとも上達するものだと考えているらしい学生諸君の思いちがいを矯正、聞きとりの訓練と、貝のように閉じられた口を開かせるために努力したい考えです。

学生諸君は教師にいびられているとは思わず、やさしくシゴカれているのだとお考え下さい。

〔教科書〕 LE FRANÇAIS ET LA VIE

## フランス語 FLL（初級）

マドレーヌ・マルタン

フランスの視聴覚教材「Vive Voix」による実用フランス語会話入門、絵を使って単語の組合せ練習、さらに様々なシチュエーションに応じた表現方法に慣れさせ日日常会話の基礎を養成する。テキストは教室で配布。

〔教科書〕 Vive Voix

## フランス語 F L L (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級クラスと同じ方法で、原則的には同テキストの7課または8課から始める。(履修学生の語学力によって多少の変更あり) 初級よりより一般的な会話を目的にする。

## 中国語 F

刈間文俊

主として2年次まで中国語を学んだものを対象とし、近年の文学作品をひろい読みする。1979年以降にわかに活発化した文壇から、世代やジャンルを越えて短編小説や詩などを選び、文学表現の面から中国語にどのような変化が起きつつあるかを考える一助としたい。巴金、王安憶、舒婷などの作品を読む。

〔教科書〕 開講時に教場で指示し、配布します

## 中国語 F L L (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 プリントを配布する

## 中国語 F L L (中級)

羅 漾 明

この授業は中国語初級 F L L で勉強した人及び2年間中国語を勉強した人又は同等学力を持っている人を対象とします。

会話を主として、中国映画などを補助教材として随時使用します。

〔教科書〕 教室で指示します

## スペイン語 F

佐藤 玖美子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指すものです。特に講読力と作文力の

養成に力を入れたいと思います。テキストとしては、スペインや中南米諸国の若者たちが書いた郷土紹介をコピーで用意する予定です。

## スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。

## スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

## ロシア語 F

岡 沢 宏

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

## ロシア語 F L L (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

## ロシア語 F L L (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の

言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。  
〔教科書〕 教場にて指示。

### 日本語 F (初級) (留学生対象)

杉山 秀子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

### 日本語 F (中級) (留学生対象)

大塚 純子

日本語 F の初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

—— 一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

## 基礎教育科目

### 経済学概説

大石 雄爾

現代世界には、資本主義社会と社会主義社会というその運動法則を全く異にする2つの社会が存在する。これら2つの社会は全く無関係に存在するのでもなければ成立したのでもない。われわれがその中で生活しているところの資本主義社会も人類社会の発展過程で成立したものである。資本主義とは一体どんな法則の支配する社会なのか、それはどのような歴史的立場づけを与えられるのか。本講義では、資本主義にいたるまでの人類社会の発展について概説し、あわせて資本主義社会の運動法則の解明を課題とする経済学の性格について言及する。

〔教科書〕 金子ハルオ『資本主義の原理と歴史』(青木書店)

〔参考書〕 杉原一郎他編『科学としての経済学』(有斐閣)

### 経済学概説

齊藤 正

I 社会科学としての経済学——経済学とは何か、経済学の目的、対象、方法など。

II 経済学の体系——社会の発展と経済学の発展、経済学の分化、経済学とイデオロギーなど。

III 現代経済学の課題と諸潮流——経済学の危機、国内及び国際的経済問題の所在など。

以上を通じて、本講義では経済学とは現実に生起している経済的諸事象を一定の法則性をもったものとして把握、解明するための学問であり、それゆえ私たちの生活や生き方に深くかかわっている学問であることを学ぶ。

〔教科書〕 伊東光晴・佐藤金三郎『経済学のすすめ』(筑摩書房)

〔参考書〕 川口 弘・小林 昇他『経済学を学ぶ』(有斐閣選書)

# 専 門 教 育 科 目

## 1 年次必修科目 (商学科)

### 会 計 学 総 論

遠 藤 孝

「会計学」なるものを全然習ったことのない諸君も「簿記・会計」という言葉ぐらい聞き、知っているとおもう。とくに商学科に入学した諸君は、かなり専門的に簿記・会計を学んでみたいという希望をもっているとおもわれる。

会計、とくに企業会計は一般に企業活動、とくに財務活動を一定の形式、内容において計算把握し、それを企業の利害関係者に知らせるものとして、あるいは企業活動を計算把握することによって経営に役立てるものとして理解されている。そして企業活動を計数的、技術的に把握するものとして複式簿記があるわけである。

しかし重要なことは会計は企業活動を計数的に把えるといわれているけれども、企業活動をそのまま、事実どおり、把えるものでもないし、把えられるものでもない。そこには会計以外の社会的要因が伴ない、今日、会計は個別企業の活動を把えるという以外に社会的性格を帯び、その性格は複雑なものとなっている。ただはじめに会計学を学ぶ諸君には、こうした問題はやや難しいとおもわれる。

この講義では会計、とくに企業会計とは何か、企業活動を把える技術的手段である複式簿記の構造、その記帳方式を理解せしめ、企業会計を規制する諸制度の概要、財務諸表についての概要などについて、2年次以降の会計学関係の科目の基礎として総論的に講義し、折にふれ会計の社会性について関心をよびおこしたいとおもっている。

教科書、参考書などについては講義の最初の時間に指示する。

### 会 計 学 総 論

長谷川 忠 一

株式会社の会計制度と企業会計の基礎構造を平易に解説し、近代会計理論の全般を理解させる。とくに近代会

計の基礎とされている企業会計原則の内容を詳述するとともに、それを基礎として作成される各種財務諸表の性格や内容、さらにはその開示制度や監査制度を解説し、会計学全般の知識を幅広く習得させる。

〔教科書〕 授業開始の際、指示する。

〔参考書〕 長谷川忠一著『決算会計の理論と実務』  
(中央経済社)

## 1 年次選択科目 (経済学科)

### 会 計 学 総 論

中 原 章 吉

私たちが「ことば」によって情報を伝達するように、ビジネスの世界では会計数値によって情報が伝達される。会計はビジネスの世界において「ことば」に相当する。したがって、会計は、経済学部学生は、常識として学ばなければならない学問である。

この科目は、2つの目的をもっている。そのひとつは、これから体系的に会計学を学んでいこうとする人たちに対するオリエンテーションとして、またひとつは会計学の基本となるところを要約して示すことである。

〔教科書〕 染谷恭次郎著『会計学』(中央経済社)  
¥ 2,200

〔参考書〕 『企業付加価値会計論』(中央経済社)  
¥ 2,600

### 会 計 学 総 論

前 期 前 田 貞 芳

企業会計の中心をなす複式簿記・財務会計の基本的な構造(しくみ)とその考え方について、統一的な説明を行った本をテキストとして使用し、その意味と限界、または問題点を解明する。

〔教科書〕 江村 稔『企業会計総論』(森山書店)  
〔参考書〕 適宜講義中指示する。

## 会計学総論

後期 加藤利安

企業会計について平易に解説したテキストを使用して講義する。講義のすすめ方や使用するテキストについては、最初の授業時に知らせる。

## 2年次必修・選択科目

### 経済原論Ⅰ

大石雄爾

資本主義経済の一般理論および独占資本主義の理論について講義する。

- I (1) 資本の生産過程
- (2) 資本の流過程
- (3) 資本主義的生産の総過程
- (4) 産業循環と恐慌
- II (1) 自由競争から独占への転化
- (2) 独占資本主義の経済構造

〔教科書〕 島恭彦他編『新マルクス経済学講座Ⅰ—マルクス経済学入門』（有斐閣）

### 経済原論Ⅰ

横山正彦

- 1. 経済学の主題と方法
- 2. 資本主義以前の生産様式
- 3. 商品生産。商品と貨幣
- 4. 資本と剰余価値。資本主義の基本的経済法則
- 5. 資本主義における賃銀
- 6. 資本主義蓄積の一般法則
- 7. 資本の循環と回転
- 8. 利潤と生産価格
- 9. 商業資本と商業利潤。貸付資本と利子
- 10. 地代理論
- 11. 社会総資本の再生産。経済恐慌
- 12. 独占資本主義の主要な特徴

### 経済原論Ⅰ

齊藤正

- 1. マルクス『資本論』を中心とした経済学の体系
  - 2. マルクス体系とケインズ体系との相違  
とりわけ、「投資」概念、「利潤」概念について
  - 3. 現代資本主義論への接近
- 〔教科書・参考書〕 富塚良三『経済原論』（有斐閣大学双書）

### 経済原論Ⅱ

浅田統一郎

本講義では、以下の順序に従って近代経済学の基礎知識を体系的かつ平易に解説する。

- I ミクロ経済学の理論
  - 1. 消費者行動の理論
  - 2. 生産・企業行動の理論
  - 3. 市場均衡の理論
  - 4. 不完全競争の理論
  - 5. 市場の失敗と公共財の理論
- II マクロ経済学の理論
  - 1. 国民所得の概念
  - 2. 国民所得決定の理論
  - 3. IS・LM分析
  - 4. 財政・金融政策の効果
  - 5. 物価水準の決定とインフレーションの理論

〔教科書〕 熊谷尚夫『経済原論』（岩波書店）

〔参考書〕 荒憲治郎『セミナー経済学教室13 近代経済学』（日本評論社）

### 経済原論Ⅱ

和田禎一

経済は、われわれにとって最も身近な日常生活の一側面である。家庭における主婦やわれわれの日常の買物、すなわち消費行為も、企業の生産活動や金融上の取引、そしてまた国家の財政活動や国際貿易も、重要な経済行為である。経済学は、このような人間の営む経済行為と、それらが全体として形成する社会経済の動きを、一つの理論体系によって捉えようとする学問である。そこでこの講座では、身近な経済現象もとりあげながら、その経済的意味、それから発生する経済問題、それに関する経済理論、経済政策などを説明しながら、経済学的思考の必要性や、経済学の概要を理解できるように進めていく予定である。

〔教科書〕 『現代経済学概論』（税務経理協会）

¥ 2,900

## 経済政策

石井啓雄

この講義では、客観的過程たる経済過程と経済政策の主体たる国家の間の基本的関係をふまえて、第一に、資本主義社会における経済政策の展開を発展段階と関連づけて講義する。その上で第二に、主として日本の現実によりながら、現代における経済政策の主要問題について講義する。

講義はノートにより、口述を中心とするが、参考書・必読文献等については、最初の講義の際および講義の進行状況に応じて随時指示する。

## 経済史

永田正臣

資本主義の成立・発展について、それが典型的になされたイギリスに基づいて講義を行う。資本主義は産業革命を画期として本格的に展開する。講義では産業革命に重点をおき、それに先行する発展段階において、産業革命成立の歴史的諸条件がどのように生成されるか、さらに産業革命を画期として資本主義がどのように質的变化をとげるか等々、資本主義発展の法則性に即して話を進めたいと思う。なお日本との比較にも留意したいと考えている。

〔教科書〕 永田正臣著『イギリス産業革命の研究』（ミネルヴァ書房） ¥ 2,400

## 商学総論

大吹勝男

現代資本主義社会に生起する流通・商業にかかわる経済的諸現象を科学的に分析・解明するために必要な商業資本の基礎理論の修得に務め、そのうえで戦後日本の商業構造を考察し、更に戦後政府の流通政策について検討を加える。テキストは特に使用しないが、参考文献については講義のなかでその都度紹介する。

## 経営学総論

寺中良二

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。

本年度の私の講義では、企業論の中でも、自主管理社会主義企業を中心としてその経済理論的側面について講

義を展開する。資本主義企業、なかでも現代株式会社、それに社会主義国有企業については、自主管理社会主義企業との関連・対比によって講義のなかで触れたい。また管理論においては、全体主義批判の思想を根底にもつアメリカの経営学者ドラッカーの組織原理や労務管理などの所説に言及する。以上二つの領域ともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つらうと思ふ。

## 2年次選択科目

### 民法一部

鶴井俊吉

本講義は民法のなかの財産法を対象とする。

財産法は、わわれれ日常生活で最も密接に関係する法分野であり、その内容は、私有財産制の保持・活用のための法制度である。民法典のうち、総則・物権・債権編がこれに属するが、そのなかで、総則・物権に関する基礎的な解説を通じて、主要な原理・原則を理解できるように講義を進める予定である。

〔教科書〕 教場にて指示する。

### 憲法

斉藤寿

この講義は、憲法の「しくみ」と「はたらき」について、経済学部学生向きに、興味深い講義を続けながら、楽しく行ないます。

前期には、「人権の“しくみ”と“はたらき”」について、後期には、「統治の“しくみ”と“はたらき”」について、講義します。

これらの前・後期の講義は、一年を通じて、極めてユニークに、そして楽しい雰囲気の中で行なわれます。

〔教科書〕 拙著の中から、開講の際、選択・指定します。

### 商業史

山田勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行なう。対象とする時代は西欧については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 山田 勝『近代イギリス貿易経営史（増補版）』（創成社） ¥ 2,300

## 統計原論

吉野 紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に当て、現実の経済現象から採られた経済データを用い、経済分析との接合に意を尽したい。いわば数量的経済分析の基礎ともいべき内容を解くことになる。『白書』類や各種の公表されたペーパーに多用されている様々な回帰式の理解と評価ができるようになれば、本講の目的の一部は達成されたといえるであろう。

〔教科書〕 『現代統計解析』（芦書房）

## 簿記論

竹林代嘉

「会計学総論」の履修を通じて、複式簿記の基本的な仕組みを勉強したことを前提に授業を進める。まず復習の意味で、複式簿記の原理や商品売買・手形取引などを解説しながら、さらに高度な帳簿組織や偶発債務、棚却減耗損などの問題についてもふれる。そして最終的には、本支店会計や株式会社会計など、いわゆる商工会議所簿記検定試験2級程度の問題が、理解できるようにしたい。

ところで、簿記の理解には演習問題を自分で解くことが大切であり、進行に応じて「簿記問題集」を教室で解答してもらおう。

〔教科書〕 『簿記テキスト』および『簿記問題集』（東京簿記教育協会編）

〔参考書〕 飯野利夫・染谷恭次郎編著『明解簿記3級および2級』（国元書房）

## 財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。逆にいえば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大してきて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性質、内容などについて講義する。

1年次「会計学総論」を履修し、3・4年次で会計学関係の科目を履修していこうとする諸君は、1年次の積上げとして、3・4年次科目の基礎として履修することを期待したい。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

## 演習 I

前期 前田 貞 芳  
後期 加藤 利 安

企業会計の中心である財務会計を、単に数字の表現としてでなく、一つの社会現象と捉え、その数字の意味、測定構造について分析を行って、今日の財務会計の問題点を摘出し、それに対する思考方法を習得する。

〔教科書〕 浅羽二郎『財務会計論』（森山書店）

〔参考書〕 講義中適宜指示

## 3・4年次選択科目

### 民法二部

青野 博之

民法典のうち、第三編「債権」を本講義の対象とする。主として、売買契約・賃貸借契約を具体例としてあげながら、契約法を説明し、最後に不法行為法を取り扱う予定である。

〔教科書〕 谷口・於保監修／甲斐・乾・椿編『新版民法概説 2』（有斐閣）

## 農業政策

浅田 喬二

本年度は旧植民地（台湾，朝鮮，「満州」）における日本人土地所有の検討を行なう。日本人地主は植民地農村の民族的・階級的支配者であり，また，日本帝国主義の植民地を支配するための社会的支柱であった。講義の重点を，(i)日本人の地主化過程，(ii)小作制大農場の経営内容，(iii)日本地主制の植民地型の特質，(iv)日本農業と植民地農業の関係，(v)日本ファシズムと農業・農民問題，(vi)満州農業移民論，の解明に置く。

参考文献は講義の最初の時間に知らせる。

〔教科書〕 浅田喬二『日本帝国主義と旧植民地地主制』（御茶の水書房） ¥ 2,500

## 近代経済学

浅田 統一郎

本講義では，現代マクロ経済学の最新の理論を体系的かつ平易に解説する。尚，本講義の受講者は合わせて国民所得論，価格理論のうちいずれかを受講することが望ましい。

〈主な内容〉

1. 市場経済のマクロ構造
2. 総需要とGNP
3. 貨幣と利子
4. インフレーションと失業
5. 財政・金融政策の効果
6. 開放体系下のマクロ経済学

〔教科書〕 小泉 進『マクロ経済学』（有斐閣）

〔参考書〕 中谷 巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）

## 価格理論

荒木 勝啓

今年はやや趣向を変えて，需要理論から生産理論へと向かわずに，その応用として，労働供給理論と総供給理論へと進み，マクロ的な一般均衡モデルへと展開する。すなわち，70年代以降革新されたIS-LM分析とS-D分析の統合的理論の基礎を展開する。マクロ的一般均衡モデルを理解することによってよりミクロ的抽象的な一般均衡モデルの理解の糸口が得られるからである。その上に立ってミクロ的一般均衡理論の限界と問題点を明らかにしていきたい。

〔参考書〕 ブランソン『マクロ経済学』（マグロウヒル社）

## 商法一部

荒木 正孝

商法総則と会社法が講義の対象となるが，とくに現代資本主義社会において我々の経済生活に大きな影響を与えている株式会社制度について，その生成・発展，機能，構造等その私法的側面を規制する株式会社法の説明を中心に講義を進めたい。

本講義を選択する者は，2年次において民法一部を履修済みであり，かつ3年次以降において民法二部を学んでいることが望ましい。なぜならば，商法は民法の特別法であり，民法上の制度や考え方を基礎としているからである。

〔教科書〕 荒木正孝・福井 守著『商法総則・会社法（上巻）』（成文堂）

## 経済学史Ⅱ

有井 行夫

マルクス経済学と近代経済学の社会把握の相違の発生という見地から次の内容をお話しします。

- 第1章 経済学史の意義——さまざまな「色眼鏡」としての「理論」
  - 第2章 対象としての市民社会の性格
  - 第3章 「色眼鏡」のふたつの起源——カントとヘーゲル
  - 第4章 ヘーゲルからマルクスへ
  - 第5章 「自己矛盾」の体系としての『資本論』の世界
  - 第6章 マルクス体系の「色眼鏡」チェンジ——ヒルファディングとレーニン
  - 第7章 限界革命の社会観
  - 第8章 現代資本主義論争の一断面
- 〔参考書〕 授業中に挙げる

## 会計監査論

飯岡 透

財務諸表監査の目的は企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することであり，企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い，その役割は今日ますます重要になっている。

本講座では，わが国を始め，英・米・西独の監査制度の概要，監査担当者，監査証拠，個別財務諸表・中間財務諸表・連結財務諸表の監査手続，監査報告書などにつ

いて検討する。

さらに、営業報告書・後発事象の監査、粉飾決算などについても言及したい。

〔教科書〕飯岡透『株式会社社会会計監査論』（創成社）  
¥ 2,900

## 国際金融論

池田 健

拙著国際金融論により国際金融の理論を講じ、なお必要により時事問題を解説する。

〔教科書〕池田 健『国際金融論』

## 労務管理

石井 修二

労務管理とは、企業の維持・存続・発展のために展開される経営者活動の中心的領域をなす。その直接の目的は、雇い入れた従業員・労働者から最大限の労働能率を引き出すことにある。この講義では、労働能率の最大限獲得を目的として展開される経営者の対従業員政策とその理論的背景を形成したいくつかの代表的理論に目を向け、アメリカと日本の状況について検討を行なう。

〔教科書〕未定

## 交通論

石井 彰次郎

1. 交通の概念
2. 産業資本と交通
3. 交通資本の循環
4. 交通運賃
5. 交通事業の公益性
6. 国家と交通

以上の諸項目を中心として講義を行なう。

〔教科書・参考書〕講義の際、指示する

## 保険論

石名坂 邦昭

保険はわれわれの経済生活になくなくてはならない経済施設であり、その歴史は古く、企業活動や家計経済と深く結びついている。保険は企業危険の移転策として、機関投資家として、さらには家計の安定をはかるものとして

広く活動している。本講義においては保険の本質、保険の意義、保険の歴史を把握し、さらに生命保険、損害保険、社会保険等につきわしくみて行くことにより経済学の一分科としての保険、さらには経営学の一分科の保険を明確にして行きたい。

〔教科書〕『保険総論』（法律文化社）

〔参考書〕『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）

## 商業政策

岩下 弘

現代日本における流通政策を包括的に考える。

- 一 現代日本資本主義と流通政策
- 二 流通近代化の政策と論理
- 三 流通システム化政策の矛盾とその限界
- 四 流通政策としての独禁法体系
- 五 流通政策としての大型店規制
- 六 海外の流通政策
- 七 消費者政策の現状と課題

〔教科書〕『現代日本の流通政策』（大月書店）

〔参考書〕通産省編『増補・新・大規模小売店舗法の解説』（通産産業調査会）

通産省編『新・大規模小売店舗法法規集』（通産産業調査会）

## 経済法

江上 勲

資本主義の高度化した段階において見えざる手の導きによる国民経済の自然的調和が達成しがたくなった状況に対応し、資本主義の基本法である市民法を補完し、基本的に市場経済を維持しながら国家の経済への干渉により経済の全体的調和をはかるための一群の法が経済法である。本講義は、かかる経済法の意義と特色を明らかにしたのち、経済法の主体を成す独占禁止法の概括的内容を具体的事例を引用しつつ説明する。

〔教科書〕江上 勲『経済法・独占禁止法概論』（税務経理協会） ¥ 3,000

〔参考書〕開講時に指示する。

## 証券市場論

柿崎 映次

下記事項を中心に証券論全般にふれる。

1. 株式・社債の発生
2. 国民経済と証券市場

3. 証券市場の歴史
4. 株式市場（発行・流通）
5. 公社債市場（発行・流通）
6. 証券取引所
7. 証券会社
8. 投資信託
9. 企業内容の開示
10. 証券金融

〔教科書〕 『図説日本の証券市場』（財経詳報社）  
 〔参考書〕 上林正矩『証券市場論（上・下）』（千倉書房）

## 労働法

掛谷力太郎

本年度は概ね次の内容の講義をおこなう。

1. 労働法生成発展の歴史
2. 労働法学の発展過程
3. 現行労働法の問題点
4. 比較労働法と経営参加の法理
5. 公共部門労働者の労働基本権
6. 社会制度と労働法

## 原価計算論

加藤利安

本年度は我国の『原価計算基準』の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。また、その際に原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。教科書・参考書については最初の授業時に指示する。

## 工業政策

剣持通夫

戦前、戦後の世界主要産業の形成、構造、発展および衰退に関する歴史的、経済的諸条件と諸過程を明らかにし、その産業を動かす本質を学びながら、経済発展の法則を体系的に知るといふ工業経済論を主体とし、将来の産業構造の在り方を研究するものである。その講義内容は、第1章 工業経済の意義（産業経済の意義、産業構造、産業組織、市場構造、価格理論、寡占理論、産業理論）。第2章 世界主要産業の成立と発展。第3章 世界主要鉄鋼業の成立と発展。第4章 転換期の世界経済と産業構造の変化。以上を講義案によって実施するが、参考文献はその都度指示する予定である。

〔教科書〕 『工業経済論』など。

## 経済地理

上坂修夫

経済地理は、経済諸現象の地域的分析を行う学問である。この講義では、経済現象をいかに地域に即して見るか、また、各地域をいかに全体の経済的構造の中で捉えるかという目を養うことをめざしながら、具体的な各地域の経済的变化と現状の分析を通じて経済現象の地域的構造について学習していく。特定のテキストは使用しないが、参考文献についてはその都度指示する予定である。

## 日本経済史

古庄正

日本経済史の研究対象は広範であるが、本年度は産業革命期の諸問題を中心に講義してみたい。

### 講義要綱

- (1) 産業革命の本質と類型
- (2) 帝国主義世界体制の確立と経済政策
- (3) 産業革命の展開とその特質
- (4) 産業構造と外国貿易
- (5) 地主制の確立
- (6) 労働者階級の成立と初期労働運動
- (7) 植民地圏の確保と帝国主義への転化
- (8) 天皇制国家の確立
- (9) 独占段階への移行

〔参考書〕 石井寛治『日本経済史』（東大出版会）  
 ￥1,900

## 中国経済論

小杉修二

中国の人口は10億人である。即ち、世界の4人に1人が中国人である。この国は社会主義を標榜し、超大国たんとする隣国であることによって、世界の中で一定の位置を占め、我国との関係も少なくないものがある。

本講義では、中国のめざしてきたものと中国経済の実態について論じるが、本年度は、中国の社会主義建設が、ソ連モデル、毛沢東モデル、「中国モデル」と三転してきた、その各々の特徴について論ずる。また、それらのモデルが採用され、変遷してきた理由を、①中国の採用した国家目的、②歴史的條件、③地理学的條件、の3つの組合せとその変化から説明する。

〔教科書〕 開講時に指示する。

## アジア経済論

小林 英夫

今年度は、戦前、戦後を通じた日本とアジアの経済関係を通史的に論ずる。前期、夏休み前までは、主に戦前「大東亜共栄圏」なるものが、どのような歴史的経緯のなかで、どう形成されていったのかを論じ、夏休み後は、戦後、それがどう改編され、今日に至っているのかを論ずる。テキスト類は追って指示する。

## 財政政策論

里中 恒志

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。近代経済学の発展とともに、財政学にもそれを取り入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてそれに基づく財政政策は重要な経済政策の1つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその論理を検討するとともに、公共支出政策、公共収入政策についてそれらの基本的な理論及び基準を紹介し、現実の政策に対する判断力を養う。また国民が財政政策の意志形成に参加する方法は民主主義的手続をとおしてであるから、適切な政策の実現のために国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について考察する。

〔参考書〕 山口忠夫他訳『G. シュメルダース財政政策』（中央大学出版部）

## 金融論

渋谷 隆一

金融論は、信用論を基礎としながら、資本主義の発展段階に応じて信用形態、制度、政策がどのように変化するかを究明する学問である。

本年度は、金融制度とりわけ銀行および庶民金融制度を取り上げる。もっとも金融制度といっても、先進国と後進国とではその発展の態様を異にする。そこで先進国イギリスと後進国ドイツ、日本の相違を念頭におきながら、その性格と機能の変化を中心に講義を進めてゆく。

〔教科書〕 教場で指示。

## ヨーロッパ経済論

清水 卓

第2次大戦の戦後復興を1950年代の初頭に完了した西

欧諸国は、冷戦体制下、50年代を通して「高度成長」を実現した。この繁栄局面は、57、58年不況を転機に、その成長の限界を露呈してくる。植民地体制の崩壊、ドル危機の深化、ベトナム戦争に象徴される戦後アメリカ体制の動揺という国際秩序の転回と共に、繁栄を続ける西欧「先進国」内部においても、インフレや高度成長に伴う社会的矛盾（公害、政治腐敗、離農、テロ等々）の累積によって、仏5月革命、伊69年暑い秋に示される社会的動揺を必然化した。こうした「高度成長」の「栄光」と「挫折」の論脈の中で、戦後西欧資本主義国の経済と社会を分析する。

## 商法二部

関口 雅夫

商法Ⅱは、商法学のうち、「商行為法」および「手形小切手法」を、主要な対象としている。

本講座は、平易を旨とし、商法Ⅱを、論理体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識の修得を目的とする。

〔教科書〕 野津 務『商法講義』〔商行為法〕（中央大学生協出版局刊）

野津 務『商法講義』〔手形法・小切手法〕（中央大学生協出版局刊）

## アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

現代資本主義世界の支柱としてのアメリカの経済事情をわかりやすく解説する。その方法は、現代アメリカ経済をできるだけひろい視野からとらえていこうとすることにある。たとえば、歴史的には植民地時代いらいの特徴を検出し、部門的にはあらゆる領域を考察の対象にしてみるとか、単にアメリカにかぎらず世界全体のなかでこの国を位置づけてみる、など。そうすることによってえられたアメリカ資本主義の現段階の特徴をもとにアメリカ金融資本の実態、いわゆる「多国籍企業」の動態、経済と国家や軍部との関係、労働者や民衆の生活の現状、日米経済関係などを再検討していく。さらに、アメリカ資本主義の世界史的地位についても吟味したい。われわれは、アメリカを美化しすぎてはならないし過小評価してもいけない。この講義は、現代アメリカ経済を冷徹な眼でつかみ、将来の日本のありかたと私達の生きかたをさぐるための一助としたいとかがえている。講義は、われわれが興味をひかれるような資料にもとづいてのしくすすめたいが、学習意欲のない学生の参加は遠慮ねがう。年間の講義をとおして出席したうえで、きちんとした小論をまとめた者のみが単位を取得しうる。

なお、よりふかめて学習したい者は、私の原書講読とあわせて履修することをすすめたい。また、この講義はなるべく3年次生のうちに履修することをすすめる。

## マーケティング

曾我信孝

### I マーケティングと貧困

独占資本の展開するマーケティングがわれわれの生活をいかに貧困にしているのかを検討し、マーケティングを学ぶ重要性を考える。

### II マーケティング政策批判

マーケティング政策のうち、基本的な政策を批判的に検討する。

### III 産業構造とマーケティング

産業間のマーケティングの展開に若干の相異がある。そこで、いくつかの産業をとりあげ、そこでのマーケティングの展開の特殊性を導き出す。

〔参考書〕 森下二次也『現代日本独占のマーケティング』（大月書店）

## 商品学

塚原博

商品学の対象、研究方法から始め、商品学の歴史、商品の分類、商品の品質、鑑識、貿易と商品、商品と関税、商品と法律等を論じ、企業における商品政策（特に新製品の開発と技術・特許・ノウハウ・商標などの諸問題）を述べ、更に消費者の立場から見た商品について考察する。次に個々の商品について——食系商品・衣系商品・住系商品・化学商品・機械商品（家庭電器、コンピューター、自動車、工作機械、産業機械など）、重要輸出入商品、先端技術商品（ニューセラミックス、形状記憶合金、アモルファス合金、超電導材料、高分子材料、複合材料、光ファイバー、新加工食品など）を実例によって具体的に学んでゆく。

〔参考書〕 上坂西三『商品学概論』（同文館）

## 国際経済論

徳永俊明

資本主義世界経済の歴史と第2次世界大戦後の資本主義世界経済の主要問題についての基本的事項の解明、整理をめざします。講義内容はつぎのとおりです。

I 資本主義世界経済の歴史（時期区分と各時期の特徴・歴史的位置づけ）

II 第2次世界大戦後の資本主義世界経済（歴史的位

置と基本構造、貿易、国際通貨制度、資本輸出——「援助」・多国籍企業、新植民地主義、「南北問題」と新国際経済秩序、資本主義世界経済の危機、日本経済と世界経済、その他）

〔教科書〕 土生・徳永・松下『第3世界への視点』（大月書店） ¥ 1,500

〔参考書〕 柴田政利『現代国際経済論』（学文社） ¥ 2,000

## 管理会計論

中原章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕 『企業付加価値会計論』（中央経済社） ¥ 2,600

## 景気変動論

西村允克

景気変動論の問題は、全体としての経済が好況と不況という現象を交替的かつ周期的に繰り返すことを説明することにある。現代景気変動論はGNPの変動として、これを把握、分析するから、マクロ経済学の基礎を受講者は十分に理解していることが必要である。そこで講義では、マクロ経済学の基礎を一応説明し、テキストを参照しながら、現代景気変動理論と景気変動の歴史的過程を説明する。テキストはあっても、テキストに従って講義を進めるのではなく、テキストは講義の補助であって、講義への出席がなければ、講義の充分なる理解はえられないであろう。

〔教科書〕 大谷龍造『経済変動論』（近代経済学双書）（同文館）

## 税務会計論

長谷川 忠 一

現在の法人税制の内容を概説するとともに、主として株式会社の税務問題を会計理論の観点から平易に解説する。なかでも税務計算上の課税所得は、税制理論や租税政策の必要によって、企業会計上の決算利益とその計算内容にかなりの相違があるので、この点に重点をおいて税務会計の仕組みと計算内容を講述する。

なお、この科目の選択者は、簿記・会計学を履修（併行履修を含む。）した者に限る。

〔教科書〕 長谷川忠一著『税務会計の基礎知識』（同文館）

〔参考書〕 長谷川忠一著『税務会計入門（15訂版）』（同文館）

## 経営管理論

百 田 義 治

一般的には、経営管理とは経営目的達成のための経営者の実践活動それ自体であり、具体的には〈計画・指導・統制〉の機能、そのための〈技術・準則・手法〉が経営管理の内容であるとされている。しかし、我々にとって経営管理論を学ぶ意義は、経営管理の技術・技法それ自体を学ぶだけではなく、現代企業におけるその歴史的、社会的特質の解明、その意義と限界を学びとることである。したがって、本講義の課題も、生産、販売、財務、人事・労務、事務などの諸部門管理と最高管理（トップ・マネジメント）で形成される現代企業の経営管理の構造と機能を現代資本主義の特質との連関において科学的に把握することにある。

〔教科書〕 仲田正機『現代企業構造と管理機能』（中央経済社）

## 経済学史 I

福 原 好 喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体

系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。

## 貿易論

古 沢 紘 造

現代資本主義論をふまえて、わが国の貿易・資本輸出の現状を分析し、日本資本主義の対外関係をより深く理解することに努める。戦後体制の解体と国際関係分断の危機をかかえこんだ今日の世界資本主義再編成の中で、日本資本主義はどのような対応をせまられているのか、またそれに伴っていかなる新たな矛盾が生じてくるのか、を考えてみたい。なお参考文献については講義の進行にあわせて指示する。

## 銀行論

本 間 靖 夫

講義は以下の三点を中心的課題として行います。

- (1) 近代的銀行の成立と歴史についての基礎理論を深めること。
- (2) 銀行の主要業務についての解説。
- (3) 戦前・戦後における銀行経営の実際についての説明。

〔参考書〕 講義中、適宜指示します。

## 中小企業論

三 井 逸 友

中小企業の実態については、さまざまな「俗論」が流布している。また、安易な“経営ハウツーもの”の横行も目立つ。こうした事態は、中小企業の存立にかんする科学的法則的な理解の不足から生じている。一方では、中小企業に従事することをいわずに“マイナー”なイメージでのみ受けとめ、「宿命論」に陥り、それが果たしている社会的な役割を見失っている向きもある。本講義では、こうした俗論や宿命論を正しく批判するために、中小企業の存立を理論的に考察し、中小企業「問題」の展開を現実の中から検討してみるとともに、「問題性」を解決し、国民生活に寄与するための「中小企業の課題と展望」をとともに考えてみたい。

〔教科書〕 佐藤芳雄編『ワークブック中小企業論』

(有斐閣)

〔参考書〕 佐藤芳雄編著『巨大都市の零細工業』（日本経済評論社）  
『中小企業白書』〔各年次〕

## 社会政策

光岡博美

本年度は、前年度と同様、日本労使関係発達史を中心とした講義を行うつもりであるが、特に戦後日本の労使関係の展開に中心を置きたい。そして、低成長下の日本の労使関係を展望するうえで高度成長期の労使関係のあり方を考えてみたい。各時期の労使関係を概説するというよりは、各々の時期に労使の争点となった問題を掘り下げていくことによって、その時期の労使関係に内在した諸問題が現代にどのような光と影を投げかけているか、といった側面から問題に迫っていくことにする。

〔参考書〕 隅谷・小林・兵藤著『日本資本主義と労働問題』（東大出版会）

## 日本経済論

三宅明正

日本経済の現況については、大別して二つの評価がある。一つは、日本の労働者の勤勉さと適応能力を讃え、「すぐれた企業体制」にもとづく成長に高い評価を与えるものであり、日本は世界の“範”とまでされる。いま一つは、日本人は密集した小住宅に住み、相互の競争の中ですさまじい労働の日々を送る人びとだとし、生活の質の劣悪さを強調して現況を批判する立場の評価である。二つの評価は相対立するが、いずれにせよ、労働問題を軸に現況をとらえるべきだとする点は共通している。日本経済論では、労働問題、具体的には日本の労資関係の展開過程に焦点をあわせた講義を行なう。特定の教科書は用いない。

〔参考書〕 熊沢誠『日本の労働者像』（筑摩書房）  
¥ 1,400  
金原左門・竹前栄治編『昭和史』（有斐閣）  
¥ 1,900

## 人口論

森岡仁

経済学の立場から人口に接近しようとするのが本講義の特徴である。経済と人口の関係の歴史は、人類がこの地球上に出現した時期にまで遡り、従って経済学においても非常に早い時期から人口がとり入れられてきた。

本講義ではわが国を含む世界全体の人口について、古くは人類の起源から、新しきはいま我々の眼前に展開する人口現象にまで論及し、その間、学としての経済人口学がどのような発展過程をたどってきたのかを詳細に論ずる。これらの論義をふまえて、最後に人口政策を論ずる予定である。

〔教科書〕 『経済人口学』（新評論） ¥ 2,800

〔参考書〕 『人口経済論』（新評論） ¥ 2,500

## 教育経済論

谷敷正光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦後日本資本主義発展と教育を中心に講義する予定である。

朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の教育要求とそれに対応した政府の経済政策、教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。

〔教科書〕 最初の授業で指示する。

〔参考書〕 高浜介二『現代資本主義の発展と教育』（汐文社）

池上 惇『現代日本資本の基本構造』（汐文社）

## ソヴィエト経済論

前期 山 縣 弘 志  
後期 羽 場 久 滉 子

ソ連邦は第11次五カ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済60年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

## 労働経済論

山下不二男

労働経済の理論と現状分析を日本の実態に焦点をおいて説明する。講義の内容は、1. 序論、2. 労働市場、3. 雇用と失業、4. 賃金、の4つの分野に分れる。1では労働問題と労働経済学、労働経済学の体系などの序論的問題、2では労働市場の意義と構造、日本の労働市場の特徴などの問題、3では労働力の供給、労働需要、失業と雇用対策などの問題、4では賃金の理論、賃金と生産性・物価、賃金と団体交渉、賃金構造、日本の賃金の特徴とその変化などの問題が取扱われる。講義は下記

の教科用を参考にしながら行う。

〔教科書〕 拙著『日本労働経済概説』（日本労働協会）  
¥ 1,700

〔参考書〕 西川俊作『労働市場』（日経文庫）（日本  
経済新聞社） ¥ 550

白井泰使郎『労働関係論』（日本労働協会）

## 国民所得論

吉野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を象徴して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたと見える。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

## 財 政 学

中 村 英 雄

歴史的考察と国際的比較の視点から、当面の問題にも触れながら、財政学の全分野を下記の順序で講義する。

- I 序論（財政学の生成と発展）
- II 予算（予算の機能と予算制度等）
- III 経費（財政支出の動向、経費学説等）
- IV 租税（租税原則、租税の水準・構造・体系等）
- V 公債（政策手段としての公債等）
- VI 財政政策（財政運営の規律等）

〔参考書〕 シュメルダース『財政政策』（中央大学出版部） ¥ 10,000

山口忠夫監修『図説財政学』（学文社）  
¥ 2,000

## 原 書 講 読

有 井 行 夫

Ernest Mandel, Der Spätkapitalismus, 第1章 Bewegungsgesetze und Geschichte des Kapitals を教材にして、現代経済の理論と歴史に関する基礎的なドイツ語に触れてみます。

〔教科書〕 コピーして教師の方で用意します

## 原 書 講 読

石 井 修 二

今日企業社会の内部では効率性をもとめての技術革新と組織の合理性が進行し、組織疎外や労働疎外といわれる状況を生み出している。このような状況に対して先進工業社会ではこれまでの労働のあり方を変えていこうとする動きが顕著である。それは、一般に産業民主化への取り組みの問題として展開されているがその内容は多様である。ここでは、このような多様な展開を各国の事情に留意しつつ検討する。

〔教科書〕 IDP. Industrial Democracy in Europe, 1980.

## 原 書 講 読

岩 下 弘

小売商業に関する英文の文献を講読する。テキストはその都度配布する。

## 原 書 講 読

大 石 雄 爾

易しいドイツ語の文献を使って、最近のドイツの政治・経済について学ぶ。ドイツ語の基礎知識を身につけていることが望ましいが、ドイツ語のあまり得意でない人もついてゆけるように、ていねいに説明するつもりである。西ドイツは、70年代以後スタグフレーションという深刻な事態に陥っているが、どうしてそうなったのか、どのような問題が生じたかなど、といった関心をもつ人の参加を期待する。文献は、講義のさいに配布する。

## 原 書 講 読

大 吹 勝 男

今年度は「資本蓄積論」に関する外国語文献（英語）をテキストに使用して輪読形式で進めたいと考えている。積極的に勉強してゆく意欲をもった学生の受講を期待する。なお、邦語の参考文献等については必要に応じて紹介する。

〔教科書〕 現在未定

原 書 講 読

加 藤 利 安

開講時に指示します。

原 書 講 読

小 杉 修 二

久しい間国の基本的な統計数を公表してこなかった中国は、最近になって、データの公表をするようになった。そのさまは、あたかも「情報ラッシュ」の観がある。そして、毛沢東モデルの破産とともに経済学の復興が見られる。本年度は、こうした動向から生れた1つの成果である中国語文献を読む。

〔教科書〕 馬洪・孫尚清編『中国経済結構問題研究（上・下）』（人民出版社，1981年12月刊）

原 書 講 読

小 林 英 夫

今年度は、低開発国論を扱った論文類を輪読する。フランク、アミンを中心に、低開発国論がいかなる理論的枠組みをもち、どのような歴史的条件のなかで生み出された理論なのかを検討する。毎回、レポートの提出を求める。

原 書 講 読

清 水 卓

現代西欧資本主義諸国の経済に関する仏語ないし英語の文献を講読する。参加者各自にパートをわりあて、年度末に翻訳としてまとめる。

原 書 講 読

瀬 戸 岡 紘

現代の資本主義経済の諸事情、とくにアメリカのそれについてかかれた英語の文献をいくつか検討する。これ

により各自がはばひろい視野にたって現代の国際経済、アメリカ経済事情などを批判的に研究していく能力がやしなわれることを目的としたい。もっとも、この膨大な課題を、外国語をつうじて、かぎられた時間で内容をゆたかになしとげることは容易でないので、私の主要講義——アメリカ経済論——と並行させて、その内容をいっそうふかめるのに有意義な文献にしぼってすすめる。したがって、この講義とあわせて履修することをすすめた。文献は随時選定して配布し、授業では原文そのものからの内容理解に力点をおくような読み方をする。あくまで経済学の学習の一貫として英文をつかうことに徹するためである。また内容にまつわるさまざまなエピソードをもちこみ、英語に自信のある者にとっても自信のない者にとってもそれぞれに興味をひきだせるようにするつもりである。なお少人数講座の性格上、必要なら教場での授業だけにこだわらない学習をも企画し（たとえば日米経済摩擦の舞台となっている工場を見学するなど）、最新の経済情勢をつかむことも考えている。

原 書 講 読

曾 我 信 孝

I 講義内容

小売商業の大規模化に関する文献を英語版で読む。

II 講義方法

時間毎に報告書を指示し、訳および内容について報告してもらい、それについて全員で質疑応答するという形式をとる。

〔教科書〕 当方でコピーを渡す。

原 書 講 読

徳 永 俊 明

〈スペイン語〉——資本主義世界経済に関する文献を読みます。毎回日本語訳文の提出を求めます。テキストは教場で配布します。

原 書 講 読

百 田 義 治

オートメーションの進展と経営管理の変化に関する文献（英語）を素材に、現代企業の経営管理問題を考えた。授業の方法は、事前に訳してきたものを報告してもらい、質疑応答を中心として進める。テキストは適宜配布します。

原 書 講 読

福 原 好 喜

私のカール・マルクス「資本論」(ドイツ語)講読も今年で11年目を迎える。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく第一篇、第三章、から読むことになる。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。

原 書 講 読

三 井 逸 友

前年度にひき続き、現代資本主義の構造論の一方法としての「労働市場分断 (labor market segmentation) 論」ないしは、「二重労働市場 (dual labor market) 論」についての文献を輪読していきたい。テキストは適宜配布する。

原 書 講 読

光 岡 博 美

欧米の労使関係に関する文献を読んでいくこととする。なお、文献については最初の授業で指示する。

原 書 講 読

山 縣 弘 志

ソ連経済に関する平易なリーダーを読む。

〔教科書〕 Вячеслав Стороженко, Беседы о советской экономике. Москва, 1980.

演 習 II

谷 口 洋 志

企業理論を中心に、ミクロ経済学の基本的内容とその簡単な適用について検討する。

〔教科書〕 『企業の経済学』 (中央経済社) ¥ 2,200

演 習 II

平 賀 明 彦

2年次の演習をふまえて、主として两大戦間期の農業問題、農業政策を手がかりに、戦前日本資本主義の構造的特質を明らかにすることを課題とする。

なお、テキスト、参考文献は追って指示する。

演 習 III

谷 口 洋 志

企業理論全般にわたる検討を行う。前期にはとくに民間企業を中心に、後期には国鉄、電電公社等の公企業を中心に議論する。

〔教科書〕 『企業の経済学』 (中央経済社) ¥ 2,200

〔参考書〕 『公社・公団・事業団』 (教育社) ¥ 880

演 習 III

平 賀 明 彦

3年次に引き続き、戦後変革期の諸問題を、財閥解体、労働改革、農地改革を中心に分析し、最終的に論文にまとめることを課題とする。なお、参考文献等は追って指示する。

## 教職および資格講座

教 職 課 程  
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座  
博 物 館 学 講 座  
社 会 福 祉 主 事 講 座  
社 会 教 育 主 事 講 座

※ 上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座受講の手びき」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	文 学 部 ・ 仏 教 学 部
社 会 教 育 主 事 講 座	文 学 部 ・ 経 済 学 部 ・ 法 学 部 ・ 経 営 学 部



## 目

## 次

教育原理(上岡 安彦)……………	1	哲学特講Ⅱ(西洋)(国嶋 一則)……………	7
教育原理(村山 輝吉)……………	1	宗教学特講Ⅰ(松田 文雄)……………	7
教育原理(坂本 信昭)……………	1	宗教学特講Ⅱ(脇本 平也)……………	7
教育原理(木戸 三子)……………	1	宗教学特講Ⅲ(洗 建)……………	7
青年心理学(大浜幾久子)……………	1	教育史(磯野 昌蔵)……………	8
青年心理学(武井 澄江)……………	1	宗教教育(櫻井 秀雄)……………	8
青年心理学(牟田 悦子)……………	1	教育関係法規(木戸 三子)……………	8
青年心理学(渡辺三和子)……………	1	教育関係法規(船木 正文)……………	8
教育心理学(大浜幾久子)……………	2	図書館学Ⅰ(若林元典・山崎慶子)……………	8
教育心理学(武井 澄江)……………	2	図書館学Ⅱ(若林 元典)……………	8
教育心理学(中村 均)……………	2	博物館学(倉田 芳郎)……………	8
教育心理学(渡辺三和子)……………	2	博物館実習Ⅰ(館務)(倉田芳郎・鶴丸俊明)…	9
道德教育の研究(半期)(万羽 晴夫)……………	2	博物館実習Ⅱ(収集)(倉田芳郎・葉貫磨哉 所理喜夫・伊藤玄三)…	9
教育実習(上岡 安彦)……………	2	博物館実習Ⅲ(見学)(倉田芳郎・狩野千秋)…	9
教育実習(村山 輝吉)……………	2	博物館実習Ⅳ(特講)(石井則孝)……………	9
教育実習(坂本 信昭)……………	3	視聴覚教育(赤堀 正宜)……………	9
教育実習(木戸 三子)……………	3	日本文化史Ⅱ(室室 文雄)……………	9
国語科教育法(神谷 道倫)……………	3	西洋文化史Ⅰ(楳川 一朗)……………	9
書道科教育法(谷村 義雄)……………	3	西洋文化史Ⅱ(阿部 重雄)……………	9
宗教科教育法(松本 皓一)……………	3	仏教美術(林 良一)……………	10
英語科教育法(大沢 一雄)……………	3	現代美術(中山 典夫)……………	10
社会科教育法(地理)(高木 久)……………	3	禅美術(竹内 尚次)……………	10
社会科教育法(地理)(中島 義一)……………	3	美術史概説(林 良一)……………	10
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)……………	4	西域美術史(林 良一)……………	10
社会科教育法(谷敷 正光)……………	4	考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)……………	10
社会科教育法(古屋野素材)……………	4	考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)……………	10
社会科教育法(大久保治男)……………	4	考古学特講Ⅰ(飯島 武次)……………	10
職業科教育法(山田 勇治)……………	4	考古学特講Ⅲ(狩野 千秋)……………	10
商業科教育法(谷敷 正光)……………	5	日本民俗学(小島 清志)……………	11
商業実習(前田 幸一)……………	5	仏教民俗学(和田 謙寿)……………	11
職業指導(山田 勇治)……………	5	宗教人類学(佐々木宏幹)……………	11
産業概説(和田 禎一)……………	5	考古発掘実習(飯島 武次)……………	11
世界史概説(前田 正名)……………	5	社会福祉概論(高橋 重宏)……………	11
世界史概説(青木 道彦)……………	6	障害福祉論(原田 信一)……………	11
日本史概説(芥川 龍男)……………	6	社会福祉実習Ⅰ(原田 信一)……………	11
地誌学概説(今朝洞重美)……………	6	社会福祉法制(小林 弘人)……………	12
地誌学概説(長野 覚)……………	6	公的扶助論(小沼 正)……………	12
地誌学概説(渡辺 盾夫)……………	6	児童福祉論(原田 信一)……………	12
自然地理学概説(早船 元峰)……………	6	老人福祉論(奥山 正司)……………	12
人文地理学概説(高木 久)……………	6	社会保障概論(小沼 正)……………	12
社会学原論(渡辺 源樹)……………	6	地域福祉論(岡田 真)……………	13
経済原論(小野 俊夫)……………	7	ケースワーク論(高橋 重宏)……………	13
政治学原論(飯山 勇)……………	7	グループワーク論(松本 栄二)……………	13
民法Ⅰ(鶴井 俊吉)……………	7	社会福祉事業発達史(林 千代)……………	13
哲学特講Ⅰ(東洋)(篠原寿雄)……………	7		

母子福祉論 (林 千代) .....	13
医療社会事業論 (春見 静子) .....	14
社会福祉方法総論 (高橋 重宏) .....	14
社会福祉管理運営論 (重田 信一) .....	14
リハビリテーション論 (原田 信一) .....	14
社会教育概論 (磯野 昌歳) .....	14
社会教育方法論 (磯野 昌歳) .....	14
社会教育行政財政 (酒匂 一雄) .....	14
教育社会学 (村山 輝吉) .....	15
社会心理学 (坪井 健) .....	15
社会教育施設 (村山 輝吉) .....	15
児童教化 (冨田 博之) .....	15
青少年問題研究 (和田 謙寿) .....	15
青少年指導演習 (和田 謙寿) .....	15
社会教育演習 (上岡 安彦) .....	16
教育評価 (大浜幾久子) .....	16
教育法規研究 (神田 修) .....	16
成人指導及青少年指導 (酒匂 一雄) .....	16
生活指導 (秋山さと子) .....	16
教育哲学 (汐見 稔幸) .....	16
教育調査 (大塚 雄作) .....	17

## 教育原理

上岡安彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕 『エミール』〔上・中・下〕(岩波文庫)  
上 ¥ 550, 中 ¥ 450, 下 ¥ 450  
『教育学研究入門』(東大出版会)  
¥ 1,800

## 教育原理

村山輝吉

下村湖人ほか二・三の教育論を紹介しながら、教育とは何かについて、その目的・内容・方法・制度・歴史と現状、展望と課題等にわたって講じる。

## 教育原理

坂本信昭

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の内容
4. 教育の方法
  - (1) 学習指導
  - (2) 生活指導
5. 教育の経営
6. 教育の制度
7. 教師

おおむね上記についてテキストにそって論究していきます。

〔教科書〕 教師養成研究会編『教育原理』

〔参考書〕 デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』  
(岩波文庫) その他授業で適宜紹介する。

## 教育原理

木戸三子

前半は教育について何がその基本的な問題であるかを考え、後半はそれにもとづき青年期や青年期教育につい

て検討する。(テキストを定め読み合うこともありうる。)

## 青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

## 青年心理学

武井澄江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心となるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

## 青年心理学

牟田悦子

青年期は、時間的な展望の中で自己を再編成する時期であるといわれるが、人間の発達の流れの中での青年期を理解すると共に、教師が、今の教育の現場で出会うさまざまな問題にかかわるとき、どのような基本的な視点をもちうるかについて共に考えていきたい。

〔教科書〕 藤永保也編『青年心理学 テキストブック 心理学(5)』(有斐閣) ¥ 1,200

## 青年心理学

渡辺三和子

前期は人格が形成されるとはどういうことか、青年期は人格の形成にとってどんな位置にあるのか、青年期の特徴は何か、等を検討する。後期は、中・高校生に起こりがちな問題行動について述べる。

## 教育心理学

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

## 教育心理学

武 井 澄 江

「発達」「学習」「パーソナリティーと適応」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。心理テストの実習も含む。

## 教育心理学

中 村 均

子どもが大人になる途上でどのような変貌をとげ、それにはどんな規則性または特殊性があるか、年齢との関連で(発達)および特定の訓練や経験との関連で(学習)検討する。また、そういった事柄が一人一人でどんな風に違うか(個人差)、個人差が教室や家庭での適応にどう影響するか、これまでの知見を紹介する。

〔教科書〕『目でみる教育心理学』(ナカニシヤ出版)  
¥ 1,500

## 教育心理学

渡 辺 三和子

前期は教育を受ける子どもをよりよく理解するために次の点を考察する。発達と学習、学習活動のメカニズム、知的な発達のみならず、動機づけ、個人差について。

後期は、教育方法と評価について述べる。個人差に応じた教育とは。さまざまな授業方法の試み、評価の方法について。

## 道徳教育の研究(半期)

万 羽 晴 夫

昨年度は、公教育の近代的原则をふまえながらもとりたてて道徳教育を行うことの根拠として、根源的価値意識論に言及した。今年度は、それを発展させる意図の下に、人格形成学校としての今日の学校の任務と役割を明らかにしつつ、子どもたちの抱える様々な問題を考えながら、道徳教育の今日的課題に迫ってみたい。また他方で、根源的価値意識論そのものの倫理的検討も行ってみてみたいと考えている。

〔参考書〕中野光・藤田昌士編『史料道徳教育』(総合労働研究所) ¥ 2,000

## 教育実習

上 岡 安 彦

### 事前指導

学校の教師としての仕事について講義  
学習指導案作成実習、カリキュラム編成実習

### 訪問指導

実習期間中の研究授業参加

### 事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』(大蔵省印刷局) ¥ 250

『高等学校 学習指導要領』(大蔵省印刷局) ¥ 300

デューイ『学校と社会』(岩波文庫)  
¥ 300

## 教育実習

村 山 輝 吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育についての理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習体験をはさんで、講義・討議・レポート作成・面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

## 教育実習

坂本信昭

駒沢大学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進めます。

教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容（領域）に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行なう。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート作成→提出、(3)グループ編成による授業（ディスカッション）を行ない教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行なう。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』（共文社）など、授業で適宜紹介する。

## 教育実習

木戸三子

前半は教育実習についての諸注意や心構えについて述べることを中心とし、後半は実習体験をもとにして、教育現場の諸問題や学習指導や生活指導のあり方を考える。

## 国語科教育法

神谷道倫

中学校・高等学校の国語科教育の意義・動向、ならびに学習内容（領域）、教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、しかるのち実際の教材にあたって、教材研究のあり方、指導事項、方法等々、主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新版）』（桜楓社） ¥ 880

## 書道科教育法

谷村義雄

中学および高校に於ける書教育が近年やや低調であるといわれるのは、専門の教員の実力の貧困に起因することが大きい。書教育の現場教師として必須の条件は何かを考え、これを充すにはどうすべきかを講じたい。また

理論として書論の講読演習を行なう。

〔参考書〕『中国書論集』（二玄社刊）

## 宗教科教育法

松本皓一

宗教科教育に際しての理論的な基本問題、現実に教師となって必要とされる実際上の諸問題を講義する。カリキュラム作成や教材研究等に主眼をおく。

〔参考書〕講義中適時指示してゆく。

## 英語科教育法

大沢一雄

各種教授法について述べたあとで、新しい教授法がどうあるべきかを考える。なお、初級から上級までの各段階の英語教授について演習をおこなう。

## 社会科教育法（地理）

高木久

1. 生徒指導を中心とした教師の在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

## 社会科教育法（地理）

中島義一

年度の当初は社会科教育の実際的方法につき、担当者の経験にもとづき講義する。後は毎時間学生諸君が交代で壇上に立ち、授業演習する。下記教科書のほか、地図帳（中学生または高校生の時使用したもの）と中学校の社会科教科書（これについては授業時指示）が必要である。出席を重視する。

〔教科書〕山崎謹哉『新訂地理教育の本質と実践』（古今書院） ¥ 2,200

## 社会科教育法（歴史）

野呂 尚生

中・高等学校における社会科の授業をどのように展開してゆくかを、とくに歴史分野について実践的に考えてゆきたい。そのため、後期は自ら実習する機会を設定して行う。

## 社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺し続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教育採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、学習指導要領も使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

## 社会科教育法

古屋野 素材

我が国において社会科について考えるということは、一教科の問題にとどまらず、必然的に教育問題全体の極めて重要な側面—政治状況と教育の緊張関係をはじめとして—を考察する方向へむかざるを得ない。当講義では、この点をふまえつつ、社会科に関連する歴史的な問題構造を検討し、かつ今後の社会科教育が果たすべき役割とその可能性の検討を通じて、各自が教職に主体的にかかわってゆく手がかりをさぐりたい、特に、大学生として、各自が専攻する領域で深い学識を得てゆく過程をこそ、教職志向のバネとしてゆくことに価値を求める。Open System の主旨にそぐべく、人文・社会諸科学と社会科の関係についても、具体的に検討してゆきたい。

〔教科書〕 特に用いない。

〔参考書〕 講義中に紹介する。

## 社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合同的的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領（中学、高校の社会）』、各自が使用した社会関係の教科書

## 職業科教育法

山 田 勇 治

教職についたときに役立つように職業教育の次のような項目について取り扱う。

1. 新しい職業教育観
2. 高校の大衆化と職業教育の盛衰
3. 職業教育の諸機会

#### 4. 各国の職業教育

〔教科書〕 宮地誠哉・倉内史郎編「職業教育」講座  
『現代技術と教育4』（開隆堂）

¥ 1,600

〔参考書〕 宮地誠哉『中等教育と職業生活』（川島書店） ¥ 1,600

### 商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、今回の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、再び大きく、軌道修正されている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本格的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めた。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科目の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）  
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社）、遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）、田代三良『高校生』（岩波新書）、『あしたに甦れ』（文理閣）  
その他商業の教科書、学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

### 商業実習

前 田 幸 一

会社設立から商品取引に係わる事務手続きについて勉

強していく。

〔教科書・参考書〕 未定

### 職業指導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）

¥ 1,300

文部省『進路指導の現状と問題』（ぎょうせい） ¥ 200

〔参考書〕 近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版） ¥ 1,500

### 産業概説

和 田 禎 一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわった日本の産業と産業政策を概観、分析、評価することにした。

〔教科書〕 授業にさいし適宜指示する。

### 世界史概説

前 田 正 名

世界史の流れを政治・経済に中心をおいて簡潔に概説する。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房・博文社）

## 世界史概説

青木道彦

ヨーロッパ世界の形成と発展を中心とするが、古代地中海世界やイスラム世界など、他の文化世界との関係にもふれながら講義を進めたい。特に近代において、欧米諸国が世界の覇権をにぎる形で、世界が一体化していったことの意義と背景に重点をおいてみたいと考えている。特に教科書は指定しないが、下記の参考書のうち一冊を読みこなすつもりで受講されるとよいと思う。

年間3～4回小テスト実施の予定、理由なくこれに欠席する者には、定期試験の受験資格を与えないので注意のこと。

〔参考書〕衣笠茂他『概説西洋史』（東京創元社）  
祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）  
堀米庸三監修『西洋史展望』（晶文社）

## 日本史概説

芥川龍男

日本の中世に焦点をおいて講義するが、一方的な講義形式はとらず、質問、レポート等を加味して行なう。歴史の研究手法の事例をあげながら講義をすすめるので、受講生の積極的学習を強く希望する。

テキストは特に指定しないが、講義の進行によって参考文献を紹介するので積極的に読破してほしい。

年間を通じて、受講生は「歴史的な物の見方」・「歴史的な考え方」を身につける努力を、自らの計画によってすすめることを要望する。したがって、受身的な学習態度とみなされる諸君は評価の対照にしないこともあり得る。

## 地誌学概説

今朝洞重美

地誌学の本質を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外国地誌を講義する。

## 地誌学概説

長野覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したの

ち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕藤岡謙二郎他共著『世界地誌』（改訂版）  
（大明堂）

## 地誌学概説

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について講義をする。受講の際には地図帳を持参すること。

## 自然地理学概説

早船元峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意のこと。

## 人文地理学概説

高木久

地理学の思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に乗って、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

## 社会学原論

渡辺源樹

“現実科学として社会学”の立場から、現代社会学の基礎理論の諸問題について体系的且つ具体的に論述するとともに、とりわけ準拠集団論に依拠しつつ、リーダーシップと凝集性・集団圧力、モラル、並びに社会規範と逸脱行動、アノミー、群衆と大衆等々についての解明に努める。

## 経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮して、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

## 政治学原論

飯山勇

本講義は、政治学の基礎理論的部分をとりあげ、その原理的究明に主眼を置いて講義を行なう。特に本講義では現代政治についての理解を深める意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに主として、政治権力、国家、政治機構などを解明する。

〔教科書〕 飯山勇『政治学要論』（八千代出版）

## 民法 I

鶴井俊吉

本講義は民法のなかの財産法を対象とする。

財産法は、われわれ日常生活で最も密接に関係する法分野であり、その内容は、私有財産制の保持・活用のための法制度である。民法典のうち、総則・物権・債権編がこれに属するが、そのなかで、総則・物権に関する基礎的な解説を通じて、主要の原理・原則を理解できるように講義を進める予定である。

〔教科書〕 教場にて指示する。

## 哲学特講 I (東洋)

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

## 哲学特講 II (西洋)

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚すること、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしてほしい。

〔参考書〕 その都度示す。

## 宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

## 宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

## 宗教学特講 III

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時、指示する。

## 教育史

磯野昌蔵

わが国及び欧米諸国における青年期教育の発達を検討する。

## 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

## 教育関係法規

木戸三子

教育関係諸法規（ことに教育基本法など）の歴史的成立やそれらの性格等を検討することを通し教育の本質と法との関係について考える。

〔参考書〕 『教育小六法』（学陽書房）

## 教育関係法規

船木正文

現代日本の教育法制度のしくみと内容及び教師にとって必要な教育法知識について、現実に生起するさまざまな教育問題を具体的に紹介・検討しながら、概観する。

〔教科書〕 牧木正名・平原春好編著『教育法入門』（学陽書房） ¥ 1,500

〔参考書〕 『解説教育六法』（昭和59年版）（三省堂） ¥ 2,000

## 図書館学Ⅰ

若林元典・山崎慶子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な

資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

## 図書館学Ⅱ

若林元典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

## 博物館学

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館学の基本を講ずるので、この講義を聴くだけでは博物館を全く識るには程遠いのである。その点からいえば社教主事の資格を取得しようとする方は、なるべくは他の選択科目を受けていただきたい。4月第1週の時間に必ず出席すること。

### 博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・鶴丸 俊明

博物館で10日間学芸員について実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

### 博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・葉貫 磨哉  
所 理喜夫・伊藤 玄三

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

### 博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・狩野 千秋

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習は前期・後期のいずれかの半期行うのであるが、組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

### 博物館実習Ⅳ（特講）

石 井 則 孝

昭和58年3月国立歴史民俗博物館が、千葉県佐倉市に誕生した。最近における博物館建設ブームの頂点に立つものと注目されている。こういった環境の中で、今後いかなる博物館が建設されていくのか、公立の美術館建設が一段落した中で、過去の実績を評価することによって将来像を考えてみる。文化を、行政体では行政の文化化などと使い、博物館をその中心的存在として位置づけよ

うとしている。しかし、博物館を実際に運営するのは、学芸員そのものであり、その資質によってはいかようにも変化するのである。21世紀へ向けて、今後の博物館はどのように活用され市民に定着していくのか、首都圏の博物館の動向をさぐりながら、現実を考えていきたい。

### 視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔注〕 特別教科書は使用しない。

〔教科書・参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

### 日本文化史Ⅱ

圭 室 文 雄

日本文化のなかで、とくに日本の宗教の問題についてとりあげることにしたい。ここでは古代から現代に至るさまざまな宗教について吟味を加えることにし、それぞれの時代の文化にどのような影響を与えたかを検討したいと思う。

〔教科書〕 『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

〔参考書〕 『神仏分離』（教育社新書）

### 西洋文化史Ⅰ

椽 川 一 朗

西洋都市史を、経済・社会構造・政治・文化の諸方面から概観する。

### 西洋文化史Ⅱ

阿 部 重 雄

ヨーロッパ文明の源流にさかのぼり、ギリシア古典文化、ヘレニズム文化、ローマ文化などの特色を探る。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

## 仏教美術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびに古代インド美術の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 西域美術史

林 良 一

西域美術、ことに仏教美術の東伝を中心として、各地遺跡および遺品について講述する。各地の遺跡や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔参考書〕 林 良一『シルクロード』（美術出版社）

## 現代美術

中山 典 夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心に、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

## 考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究の基礎的知識が身につくよう、講義するつもりである。年度第1週の授業には必ず出席してほしい。

## 禅美術

竹 内 尚 次

禅林美術は禅宗教団の形成展開にもなって自然に発生したもので、禅そのものとは明確に切断されなくてはならない。この禅林美術の本質を究めるために、上代仏教美術とくに平安初期に空海将来の密教美術と対比して考える。

なお、禅林美術の豊かな爛熟した開花と結実とを、その中心となる絵画作品群の主題を根底から分析することによって、そのなかに在る本質を解明する。具体的には国宝・重要文化財のうち、テレビカルなものを探りあげて、教材すなわち研究対象として、現時点においてのデータを手がかりとして、いっしょに考えてみる。

〔参考書〕 玉村竹二著『夢窓国師』（京都平楽寺書店）  
同氏著『五山禅僧伝記集成』（至文閣）  
竹内尚次著『近世禅林美術』（至文堂 日本美術シリーズ）

## 考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

『考古学ゼミナール』の講読を通じて世界考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社、1976年、学生版） ¥ 2,800

## 考古学特講Ⅰ

飯 島 武 次

WANG ZHONGSHU, "Han Civilization" の講読を行なう。

〔教科書〕 WANG ZHONGSHU, "Han Civilization," Yale University prss, 1982  
¥ 12,800 （コピー可）

## 美術史概説

林 良 一

中国の魏晋南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥・白鳳期の美術にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 考古学特講Ⅲ

狩 野 千 秋

アメリカ大陸の古代文明のうち、とくにマヤ、アステカを対象として、それぞれの文化の生成過程と特質について考察する。

〔参考書〕 『マヤとアステカ』（近藤出版社）  
¥ 3,500

## 日本民俗学

小島清志

前半は、柳田国男以来展開されてきた民俗学の学説史を概観し、何が問われ、どのような方法によってきたのかということ、いささかなりとも明らかにしたい。後半は奄美・沖縄におけるフィールドワークにもとづきながら、現代の民俗学の諸問題、特に民俗社会の変化、都市・農村問題について考察することとしたい。

〔参考書〕 講義の中で随時指示する。

## 仏教民俗学

和田謙寿

文化財の集いや郷土史研究会などに臨んだ時、必ず仏教文化的な知識が必要となってくる。また、葬式や法事などに出かけると必ず仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処できるように、冠婚葬祭のうち、特に葬祭の面に比重を置き、今年の講座を進めて行きたいと思う。なお、実地巡検や特殊ゼミを実施する場合もあるので、年額1～2万円位の費用を用意する必要があると思う。

〔教科書〕 和田謙寿著「仏教の発展—民俗学・歴史地理学的考察—」（仏教民俗学研究会発行）  
¥ 2,900

## 宗教人類学

佐々木宏幹

日本・東アジア・東南アジア各地の諸社会に関する宗教人類学的な研究成果を取りあげ、検討する。宗教的観念と社会組織との関係や宗教儀礼の構造、社会—文化的意味についても考察する。テキストはその都度紹介する。

## 考古発掘実習

飯島武次

野外における発掘実習を行なう。夏休みの発掘実習に、20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

## 社会福祉概論

高橋重宏

近年、社会福祉は流行語の一つとなっているが、社会福祉とは何か？ ということになると、その解釈は人さまさまで、その内容や課題についての一致した見解が、必ずしもあるとはいえない。

日常生活のなかでも「慈善」、「慈善事業」、「社会事業」、「社会福祉事業」、「社会福祉」、「福祉」、さらに「ソーシャル・ワーク」、「社会保障」などのことばを安易に混乱し使用している場合が多い。

本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と課題について、一応の体系的理解ができるようつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕 『社会福祉六法』（第一法規）  
『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会出版部）

なおその他の参考文献については図書館発行の『読書案内』（昭和59年版）を参照してほしい。

## 障害福祉論

原田信一

主として、わが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、その原点を探るとともに、さらに欧米先進国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』（第二版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児(者)福祉』（田研出版）

## 社会福祉実習Ⅰ

原田信一

これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場において、実際の福祉従事体験等を通してそこにかなる相反や矛盾面があるかなどの現実認識を深めながら、福祉の本質の一端を学びと

ってもらふ。一方、大学においては、実習前に、オリエンテーション、現業機関の組織、機能等を実践に即した概説などをトータル的に教導し、さらに実習後においては、反省・討議を行う予定である。また、実習にのぞむにさいしては、各自が、実習の目的を適確にとらえ、何をとくに実習するかの問題意識を整理し実習にのぞんでもらうことについては今更言うまでもないことである。

〔教科書〕橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）

## 社会福祉法制

小林 弘 人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は、『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会事業法制』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

## 公的扶助論

小 沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ主要な部門であり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程とそのもつ問題点——貧困と最低生活保障、最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他、および将来の方向などを取上げる。

これらの諸問題は、ひろく社会保障そのものをも規定する基本的条件である。

〔教科書〕小沼 正著『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕籠山 京著『公的扶助論』（光生館）  
仲村優一著『生活保護への提言』（全社協選書）

## 児童福祉論

原 田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいいきれない。つま

り、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講義においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕原田信一『現代児童福祉学』

〔参考書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』

## 老人福祉論

奥 山 正 司

### I 老後・老人問題の背景

1. 人口の老齢化
2. 老人と家族
3. 老人の経済状況と職業
4. 老人の身体的、精神的障害

### II 老人福祉対策の現状と課題

1. 施設福祉対策の課題
2. 在宅福祉対策の課題
3. 老人に対する処遇

## 社会保障概論

小 沼 正

先ずわが国制度の現実を把握するため、その主要な所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当など）、医療保障その他について概観し、それぞれの問題点を取上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政、国際比較などについて、論点を進める。

〔教科書〕小沼正・地主重美・保坂哲哉編『社会保障概論』（川島書店）

〔参考書〕地主重美編『社会保障読本』（新版）（東洋経済新報社）

社会保障研究所編『社会保障の基本問題』（東京大学出版会）

福武 直著『社会保障論断章』（東京大学出版会）

## 地域福祉論

岡田 真

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきか」を中心に論ずる授業である。“根廻し”はなぜ施さなければならぬのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

「ワーカーは福祉三大技術を総合的に駆使しなければならない」(integration)と言われるが、その具体的な意味は、上記の通りである。その点で本講は「方法総論」、「ケースワーク論」、「グループワーク論」と補完関係にたつものである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのまま地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってくれることが望ましい。(もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

〔参考書〕 岡田 真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

小沼 正『日本の福祉の課題と展望』、『日本都市学会年報』(1983),『駒大文学部研究紀要』(1981),『駒沢社会学研究』(1982)の岡田論文。

## ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが体系的に理解できるようにつとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

さらに、講義を効果的に展開するために『社会福祉方法総論』の単位を修得した学生の履修を原則とする。

〔教科書〕 久保弘章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

## グループワーク論

松本 栄二

社会福祉実践の方法としてのグループワークについて具体的事例を用いて解説する。そのなかで、グループ活動との相異点から更らに Social work with group の立場をとる理論についての説明も行う予定。受講者は、ボランティア活動であるとか、何らかの福祉分野における経験をもっていることが望ましい。

授業方法は出来るだけ講義はさけ、(前期の暫らくはやむを得ないが)、受講者による報告やバズ、セッションなどを操り入れたものでやる予定、事例は適時配布する(実費徴収)。

## 社会福祉事業発達史

林 千代

社会事業は、近代社会がスタートするにつれて生成したと考えられている。もちろん、いつの時代にも、生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。こんにちの社会福祉事業、社会福祉、社会保障、福祉国家に至るプロセスは長く、かつ遠かった。外国、特に英国そして日本において、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々を中心に講義していきたい。一定の歴史的産物である社会福祉その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 その都度紹介していく。

## 母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているがそれは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。これらは、いわば婦人問題の集約であり、福祉施策の最も具体的な対応がせまられる。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子家庭とは(法的規定生成要因など)、2. 母子家庭の生活実態とその困難(所得、消費生活、家事機能、住宅等)、3. 母子家庭の生活問題に対応する母子福祉施策(経済的負担に対し

て、育児、病氣、住宅について、母子寮についてなど)

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 その都度紹介していく。

### 医療社会事業論

春見 静子

英国、アメリカ、日本における医療社会事業の発達、医療社会事業の分野とその特色(病院、保健所、社会福祉施設)をふまえて、医療社会事業の方法、すなわち患者とどうかわるかという具体的な問題をバーガーの手引書に従って検討し考察する。

〔教科書〕 ミルトン・M・バーガー『病むということ』(星和書店)

〔参考書〕 中島さつき『医療社会事業』(誠信書房)

### 社会福祉方法総論

高橋 重宏

社会福祉実践の専門技術の基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての基本的姿勢についても追究する。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』(川島書店)

〔参考書〕 必要に応じ指示する。

### 社会福祉管理運営論

重田 信一

社会福祉の実践を推進するには、社会福祉の制度を整えるとともに、その制度を効果的に運営するための福祉専門性の関連を問題にしなければならない。その手段・方法を地域ぐるみ、施設ぐるみの形態を通して展開するが、その効果をたかめるには、いかなる配慮が必要かもあわせ検討する。講義を福祉経験の浅い学生にも理解しやすいよう事例を引用して説明する。特に社会福祉行政、社会福祉実践に関心のたかい学生を歓迎する。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

### リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも、困難な問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因につながっているといわれている。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえながら、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびに、リハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

### 社会教育概論

磯野 昌蔵

- 社会教育制度と法
- 学校教育と社会教育
- 社会教育関係団体

### 社会教育方法論

磯野 昌蔵

社会教育の諸形態と施設について検討する。

### 社会教育行政財政

酒匂 一雄

社会教育行政は、施設の設定・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

この視点から、①社会教育の本質と社会教育行政、②わが国の戦前の社会教育行政、③戦後の社会教育行政の理念と制度——法制・施設・職員など——、④経済政策

と社会教育政策, ⑤住民と社会教育行政, ⑥社会教育の民主化, ⑦社会教育行政の動向と課題などを講義する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 小林文人他『社会教育ハンドブック(改訂版)』(エイデル研究所)

『社会教育行政必携』〔58年版〕(第一法規)

## 教育社会学

村山輝吉

人間の発達というテーマを, 主として社会環境と文化の変容という観点から考察する。

1. 教育社会学の性格
2. 家族の訓育機能
3. 仲間集団と人間形成
4. 学校の陶冶・形成機能
5. 地域社会と教育
6. 文化の変容と子どもの発達

## 社会心理学

坪井 健

本講義は, 社会心理学をめぐる諸問題に配慮しつつ, 基本的には社会生活をしている人々の社会心理諸現象を, これまでの社会心理学が明らかにしてきた知見に依拠して, その社会的過程と心理的過程を分析的に解明することを目的とする。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

## 社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とはなにか
2. 社会教育施設の歴史と現状
  - (1) 日本 (2) 外国
3. 関係法規等
4. 施設各論
  - (1) 公民館 (2) 図書館 (3) 博物館
  - (4) その他
5. 施設職員の問題

## 児童教化

富田博之

「児童教化」の現代的形態としての〈子ども文化(児童文化)〉の成立過程(歴史)と現状を探り, 併せて〈子ども文化〉の現場で働く人のための実習を行なう。

〈子ども文化〉の歴史では, 主として, 子どものためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い, その現状では, 主として, 子どものためのマス・コミの状況について学習する。

実習は, 〈子ども文化〉の活動家にとって必須な, 身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の初歩を学習する。

〔参考書〕 ホグベン著・寿岳文章他訳『洞窟絵画から連載漫画へ』(岩波文庫) ¥450  
富田博之『学校文化活動論』(明治図書) ¥2,000

## 青少年問題研究

和田謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または, 青少年の指導者を志す人を対象とし, 理論と現実の両者を見つめつつ講義を行いたい。特に学校の教師になる場合は, 専攻した学科は当然の事, 受持クラスの生活指導にも大きな比重をかけて尽くさねばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。(特に少年の問題に興味のある者は, 青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。) 家庭内暴力・校内暴力・暴走族・薬物乱用など, 種々社会問題としてとりあげられているが, これらの問題も時間の許す限り取り組みたいと思っている。教科書は考慮中。

## 青少年指導演習

和田謙寿

国や地方公共団体が年々増加する青少年の非行化に対応して万全の策を尽しているが焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものでなく, 現実面からの考察が必要である。将来, 少年補導員や青少年指導員, 民生委員(児童委員)社会教育主事や福祉主事, 生活指導教諭等に従事しようと希望する人々には是非とも必要な講座である。最近の新聞報道によれば現在の学校教師や福祉主事の仕事を果すためには, 青少年の非行化は正指導に通じていなければ用をなさないと言われている。この線にそって, 少年補導学, ケース・ワークを中心に進めて行きたい。













